

官報號外 昭和十七年一月二十三日

○第七十九回 貴族院議事速記録第三號

昭和十七年一月二十二日(木曜日)午前十時
八分開議

議事日程 第三號 昭和十七年一月二十二日

午前十時開議

第一 恩給法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

別委員ノ選舉

第三 國家總動員法第十八條ノ規定ニ依ル法人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行ハシムルコトニ關スル法律案(政府提出)

別委員ノ選舉

第二十七 陸軍刑法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十九 陸軍軍法會議法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十一 船舶保護法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十三 海軍刑法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十五 海軍軍法會議法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十七 民法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三十九 不動産登記法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四十一 戰時民事特別法案(政府提出) 第一讀會

第四十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四十三 戰時刑事特別法案(政府提出) 第一讀會

第四十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四十五 獣醫師法第二條ノ臨時特例案(政府提出) 第一讀會

第四十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四十七 明治四十五年法律第二十一號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四十九 小形船舶乗組員手帳法案(政府提出) 第一讀會

第五十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五十一 簡易生命保險法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五十三 海軍刑罰法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五十五 海軍軍事特別法案(政府提出) 第一讀會

第五十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五十七 海軍軍事特別法案(政府提出) 第一讀會

第五十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

明治二十五年三月三十日
第三種
便物
記
可

決算委員會		
委員長	男爵小畠大太郎君	
副委員長	子爵秋元春朝君	同日委員長ヨリ左ノ通分科ヲ決定シ及分科 擔當委員ヲ選定シタル旨ノ報告書ヲ提出セ リ
豫算委員		
第一分科(歲入、大藏省)		
候爵中元	輔親君	
伯爵林	博太郎君	
子爵大河内輝耕君		
子爵八條 隆正君		
小原 直君		
下條 康麿君		
男爵矢吹 省三君		
河田 烈君		
西野 元君		
大澤徳太郎君		
兼務		
男爵山川 建君		
男爵松平外與麿君		
公爵一條 實孝君		
伯爵黒木 三次君		
子爵野村 益三君		
伯爵黒木 次郎君		
光行 正之君		
子爵渡邊 修二君		
遠藤 柳作君		
兼務		
第五分科(農林省、商工省)		
侯爵細川 護立君		
侯爵中御門經恭君		
男爵安保 清種君		
子爵大河内正敏君		
子爵谷 儀一君		
子爵伊東二郎丸君		
男爵千田 嘉平君		
河原田稼吉君		
次田大三郎君		
中野 敏雄君		
渡邊 茂吉君		
請願委員		
第一分科(大藏省、農林省、商工省)		
公爵桂 廣太郎君		
伯爵堀田 正恒君		
子爵土岐 章君		
子爵酒井 忠英君		
松村眞一郎君		
男爵伊藤 一郎君		
男爵明石 元長君		
千石興太郎君		
光永 星郎君		
磯貝 浩君		
田部長右衛門君		
兼務		
出淵 勝次君		
男爵岩倉 道俱君		
建部 昌植君		
男爵稻田 昌植君		
昌植君		
第二分科(内務省、文部省、厚生省)		
侯爵井上 三郎君		
子爵西尾 忠方君		
子爵實吉 純郎君		
廣瀬 久忠君		
建部 遷吾君		
堀切善次郎君		
男爵山川 建君		
男爵松平外與麿君		
澤田 牛麿君		
田澤 義鋪君		
岩田 三史君		
兼務		
第四分科(陸軍省、海軍省)		
公爵島津 忠重君		
侯爵中御門經恭君		
男爵安保 清種君		
子爵大河内正敏君		
子爵谷 儀一君		
子爵伊東二郎丸君		
男爵千田 嘉平君		
河原田稼吉君		
次田大三郎君		
中野 敏雄君		
渡邊 茂吉君		
兼務		
第五分科(農林省、商工省)		
侯爵細川 護立君		
侯爵中御門經恭君		
子爵伊藤 一郎君		
男爵渡邊 修二君		
忠正君		
請願委員		
第一分科(大藏省、農林省、商工省)		
公爵桂 廣太郎君		
伯爵堀田 正恒君		
子爵土岐 章君		
子爵酒井 忠英君		
松村眞一郎君		
男爵伊藤 一郎君		
男爵明石 元長君		
千石興太郎君		
光永 星郎君		
磯貝 浩君		
田部長右衛門君		
兼務		
第三分科(遞信省、鐵道省)		
公爵島津 忠承君		
伯爵柳澤 保承君		
子爵松平 忠壽君		
子爵由利 正通君		
男爵山中秀二郎君		
長谷川赳夫君		
男爵近藤 滋彌君		
竹下 豊次君		
唐澤 梅樹君		
松本勝太郎君		
上野松次郎君		
兼務		
第四分科(内閣、外務省、陸軍省、海軍)		
公爵徳川 家正君		
侯爵池田 宣政君		
子爵宍戸 功男君		
子爵河瀬 真君		
男爵向山 均君		
仁井田益太郎君		
第一分科(内務省、司法省、文部省、厚生省)		
子爵曾我 祐邦君		
大塚勝太郎君		
男爵岩倉 吉野		
有賀 光豊君		
米原 章三君		
柴田兵一郎君		
松井 茂君		
木村 尚達君		
子爵安藤 信昭君		
子爵高木 正得君		
田中館愛橘君		
侯爵小村 捷治君		
男爵村田 旭君		
男爵村田 保定君		
小坂 梅吉君		
出光 佐三君		
岩元 達一君		

昭和十五年度各特別會計歲入歲出決算

昭和十五年度歲入歲出決算檢查報告

恩給法中改正法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第二十條第二號中「看守」ノ下ニ「教導」ヲ加ヘ同條第三號ヲ左ノ如ク改ム

但シ左ノ場合ニ於テハ之ヲ轉任ト看做ス

ノ待遇ヲ受クル消防手

ル消防手警部補、消防士補又ハ消

防機關士補ニ任シタルトキ

(口) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ハ) 看守又ハ教導副看守長ニ任シ

タルトキ

(ミ) 副看守長看守又ハ教導ニ就職スルトキ

(イ) 巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

ル消防手警部補、消防士補又ハ消

防機關士補ニ任シタルトキ

(ロ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ハ) 看守又ハ教導副看守長ニ任シ

タルトキ

(ミ) 副看守長看守又ハ教導ニ就職スルトキ

(イ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ロ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ハ) 看守又ハ教導副看守長ニ任シ

タルトキ

(ミ) 副看守長看守又ハ教導ニ就職スルトキ

(イ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ロ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

(ハ) 看守又ハ教導副看守長ニ任シ

タルトキ

(ミ) 副看守長看守又ハ教導ニ就職スルトキ

(イ) 警部補、消防士補又ハ消防機

關士補巡查又ハ判任官ノ待遇ヲ受

クル消防手ニ就職スルトキ

以內デ適當ナル加算ヲ附ケルコトガ出来ルコト致シマシタ、改正ノ第二ノ點ハ、遺族扶助料ノ増額デアリマス、戰死者ノ遺族ニ昭和十三年ニ増額ヲ爲シタノデアリマスガ、現下ノ情勢ニ鑑ミマスレバ、是等遺族ノ援護ハ更ニ一層之ヲ厚クスル必要ガアルト認マラレマスノデ、一定額以下ノ扶助料ヲ、最高約四割程度増額スルコト致シマスト共ニ、遺族扶助料ノ遺族ノ員數ニ因ル加給額ハ、現行法デハ三人以上五人迄ハ順次累増シ、六人以上ハ五人ノ場合ト同額トナッテ居リマスガ、今回ハ人口政策ヲ考慮シマシテ、六人以上ノ場合ニモ其ノ員數ニ應ジテ扶助料ヲ累増スルコト致シマシタ、

次ニ別途御協賛ヲ御願ヒ致シテ居リマス民法中改正法律案ニ依リマスレバ、父母ガ死亡シタ後デモ、其ノ子ハ訴ニ依ツテ認知ヲ求メルコトガ出来ルヤウニナリマスノデ、恩給法モ亦之ニ照應シテ、公務員ノ死亡後ニ認知ノ裁判ニ依ツテ其ノ子トシテ認知セラレタル者ヲ、遺族ノ範圍ニ加ヘテ、之ニ扶助料ヲ給スルコトガ出来ルヤウニ致シ、又昨年新クニ設ケラレマシタ豫防拘禁所ノ教導監ニ消防關係ノ消防士補及消防機關士補ヲ警察監獄職員ニ指定スルナドノ爲ニ、二三點改正ヲ要スルコトナシタノデアリマス、以上ガ本法律案ヲ提出スルニ至リマサ、議長（伯爵松平賴壽君）質疑ノ通告ガゴザイマス、赤池濃君
〔赤池濃君演壇ニ登ル〕

○赤池濃君　昨日陸海軍兩大臣ヨリ戰況ノ詳細ナル御報告ガアリマシテ、今回ノ世界未會有ノ大勝利ニ關スル所ノ真相ガ明カニナリマシタノハ、誠ニ感謝ノ至リニ堪ヘマヌ、皇軍ノ撃々タル勳功ニ對シテハ、一

ドウカト申シマスルナラバ、其ノ時ハ軍民
舉シテ善後ノ措置ヲ講ズベキモノデアリマ
スルガ、其ノ場合ハ、恐ラクハ軍ヨリモ、
警官若シクハ人民ノ勞ニ俟ツコトガ多カラ
ウト思ヒマス、而シテ是等警官又ハ人民ハ、
戰時恩給加俸ヲ夢想ダニモシテ居リマセ
ス、次ニ潛水艦出沒ニ付テハ、海軍ノ將士
ノ不眠不休ノ勞苦ニ對シテ満腔ノ感謝ヲ捧
ゲマス、而シテ是ト稍ニ類似スル所ノ船舶ノ
乗組員ニ付テ見マスルト、此ノ人々ハ潛水
艦ナリ浮流水雷ノ警戒ノ爲ニ、夜モ帶ヲ解
カズ死ヲ以テ職務ニ勵シテ居ルノデアリマ
スガ、未ダ曾テ何人カラモ戰時恩給ノ話ヲ
聽キマセヌ、此ノ時此ノ際、軍人ニ限り恩
給法改正ノ特別ノ理由ガアルノデアリマセ
ウカ、ドウデアリマセウカ、御説明ヲ願ヒ
タイン、ニアリマス、更ニ本土襲撃ノ場合ハ、
軍人ガ死力ヲ盡シテ防禦スルノハ、軍人ノ
當然ノ義務デアリマス、國家が平素ヨリ軍
備ヲ嚴ニスルハ此ノ日ノ來ラムコトヲ待
ツガ爲デアル、古人曰フ、兵隊ヲ養フハ千
日、用フルハ一日ニ在リト、又軍人ハ此ノ
日ヲ以テ、平素ノ修練ヲ示スノハ此ノ時ゾ
トバカリ勇ミ立ツノデアリマス、而シテ此
ノ時殊勳ヲ奏シテ國土防衛ノ實ヲ完ウシタ
ナラバ、陛下ハ其ノ勳功ヲ錄サレルコト必
定デアリマス、唯其ノ恩賞ハ勳章其ノ他名
譽ノ方法ヲ以テナサレルノガ原則ト心得テ
居リマスガ、ドウデセウカ、從ツテ勳功ノ問
題ト恩給ノ問題トハ、結ビ付ケルヨリモ之
ヲ區別スベキモノダト思フノデアリマス
ガ、政府ノ御所見ハドウデアリマセウカ、
最後ニ伺ヒタインハ、政府ハ此ノ改正案ヲ
提出サレルニ付キマシテ、國民思想ニ及ス
影響ヲドウ云フ風ニ御考ニナツカト云フ
コトデアリマス、此ノ議會ニハ未會有ノ大
増稅案ガ提出サレマシテ、國民ノ負擔ハ頓
ニ激増スル外、計畫經濟デ事業ノ合併統

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機
農林大臣 井野 碩哉
厚生大臣 小泉 親彦
遞信大臣 寺島 健
大藏大臣 賀屋 興宣
商工大臣 岸 信介
鐵道大臣 八田 嘉明
大臣 八田 嘉明

國家總動員法第十八條ノ規定ニ依ル法
人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行ハシム
ルコトニ關スル法律案

法令ニ定ムル行政官廳ノ職權ハ勅令ノ定
ムル所ニ依リ之ヲ國家總動員法第十八條
ノ規定ニ依ル法人其ノ他ノ法人ヲシテ行
ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ同項ノ法人ガ行政官廳
ノ職權ヲ行フ場合ニ於テハ當該職權ニ係
ル罰則ノ適用ニ付テハ同項ノ法人ハ之ヲ
當該職權ヲ行フ行政官廳ト看做シ同項ノ
法人ノ役員又ハ使用人ニシテ同項ノ職權
ニ屬スル事務ニ從事スルモノハ之ヲ當該
事務ニ從事スル官吏トキ做ス
前項ニ定ムルモノノ外第一項ノ相定ニ依
リ同項ノ法人ガ行政官廳ノ職權ヲ行フ場
合ニ於ケル必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣鈴木貞一君演壇ニ登ル)

○國務大臣(鈴木貞一君)只今議題トナッ
テ居リマスル國家總動員法第十八條ノ規定
ニ依ル法人等ヲシテ行政官廳ノ職權ヲ行ハ
シムルコトニ關スル法律案提出ノ理由ヲ御
説明申上ゲマス、政府ハ先般國家總動員法
ニ基キ重要產業團體令ヲ制定公布シ、之ニ
依リ産業經濟ニ關シ統制力アル團體ヲ組織

附 則

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ勅議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メアリマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ勅議
ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メアリマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第五、北支
那開發株式會社法中改正法律案、日程第七、
中支那振興株式會社法中改正法律案、政府
提出、第一讀會、是等ノ二案ヲ括シテ議
題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メアス、及川興亞院部長

右
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

内閣總理大臣兼
陸軍大臣 嶋田繁太郎
海軍大臣 東郷 茂徳
外務大臣 萬葉 興宣
大臣 賀屋 興宣

北支那開發株式會社法中改正法律案
第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
政府ハ北支那開發株式會社ニ對シ資本
ノ半額以上ヲ出資スベシ

第四條ノ二 政府第三條第二項ノ規定ニ
依リ金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的
ト爲ス場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格及
之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付、前條第
二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財產ヲ以
テ其ノ所有ズル株式ノ株金拂込ニ充ツ
ル場合ニ於テハ其ノ財產ノ價格ニ付政
府出資財產評價委員會ノ議ヲ經ベシ
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 削除

右
中支那振興株式會社法中改正法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

第五條

政府ノ所有スル株式ノ數ガ政府
以外ノ者ノ所有スル株式ノ數ヲ超ユル
場合ニ於テハ其ノ超ユル數ノ株
得ザル議決權ノ數ハ前項ノ議決權ノ數
ニ之ヲ算入セズ

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
理由又ハ監事ノ員數が其ノ任期ノ満了
ニ因リ第九條ニ定ムル員數ヲ缺クニ至
リタルトキハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ其
ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
特殊ノ事情アル場合ニ於テハ北支那開
發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各
號ニ掲タル事業ヲ自ラ經營スルコトヲ
得

第二十四條中「投資及融資」ノ下ニ「茲ニ
自營事業ヲ加フ」
第二十九條第一項中「投資及融資ニ因ル
收入」ヲ「投資、融資及自營事業ニ因ル收
入」ニ、「投資及融資ノ總額」ヲ「投資、融
資及自營事業資金ノ總額」ニ、同條第三
項中「投資及融資ニ因ル收入」ヲ「投資
及融資ノ總額」ニ、「投資及
融資ノ總額」ヲ「投資融資及自營事業資金
ノ總額」ニ改ム

第三十四條第二項及第三十七條第三項ヲ
削ル

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右
中支那振興株式會社法中改正法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 異議ナイト認
メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマ
ス

〔高山書記官朗讀〕

戦時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關ス
ル法律案特別委員會委員

侯爵細川 護立君 侯爵淺野 長武君
伯爵二荒 芳徳君 子爵秋月 種英君
子爵舟橋 清賢君 宮城長五郎君
山川 端夫君 男爵伊江 朝助君
男爵島津 忠彦君 男爵村田 保定君
山岡萬之助君 次田大三郎君 岩田 審造君

滋澤 金藏君

同條第三項中「前二項」ヲ「前項」ニ改ム
同條第四項中「國債」ノ下ニ「地方債又ハ
社債」ヲ加フ

第九條第一項中「第四條第一項及第三項
竝ニ」ヲ削ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣賀屋宣君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(賀屋宣君) 只今議題トナリ

マシタ國民貯蓄組合法中改正法律案ニ付キ

マシテ、提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス、戰時

財政經濟ノ運行ヲ確保シ、以テ今次戰爭ノ

完遂ヲ期セムガ爲ニハ、購買力ヲ吸収シテ

通貨ノ膨脹ヲ抑制シ、巨額ノ資金ヲ積シ

テ、國債ノ消化ト生産力擴充資金トニ充ツル

ノ要益、多キヲ加ヘテ參りマシタノデ、政

府ニ於キマシテハ、此ノ目的ヲ達成致シマ

スル一手段トシマシテ、國民貯蓄組合ノ利

用スル組合貯蓄ノ増加ニ更ニ一層促進ヲ加

ヘタイト存ジマシテ、本法案ヲ提出致シタ

次第デアリマス、改正ノ要點ヲ申述ベマス

レバ、第一ハ、國民貯蓄組合ノ斡旋ヲナス

貯蓄ノ運用ノ範圍ヲ擴大致シマシテ、地方債

又ハ社債ノ買入ヲ追加シタ點ニアリマス、

是ハ地方債及社債モ亦貯蓄組合ノ貯蓄ト致

シマシテ、適當デアルト認メマシタカラデ

國民貯蓄組合法中改正法律案

國民貯蓄組合法中左ノ通改正ス

第二條第一項中第八號ヲ第九號トシ第七

號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八 地方債又ハ社債(特別ノ法令ニ依

リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ

非ザルモノノ發行スル債券ヲ含ミ

前號ニ掲タル債券ヲ除ク以下同ジ)

ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノノ買

入

タガ、組合貯蓄ノ性質上、斯カル差別ヲ設
クル必要ナシト認メマシテ、今回之ヲ總テ
上等トノ關係ヲモ考慮致シマシテ、免稅ト
而シテ組合貯蓄ノ増加ヲ圖リマス爲ニハ、
或程度ノ免稅限度ヲ引上ゲルコトガ必要デ
アリマシテ、此ノ際郵便貯金ノ預入限度引
上等トノ關係ヲモ考慮致シマシテ、免稅ト
ナル元本又ハ額面金額ヲ、一律ニ七千圓ニ
引上ガタ次第アリマス、何卒御審議ノ上
速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマ
ス

スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認
メマス、賀屋大臣

〔高山書記官朗讀〕

日本勸業銀行法中改正法律案

右 日本勸業銀行法中改正法律案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條第三項ヲ削ル

第十五條第三項ヲ左ノ如ク改ム

左ノ各號ノ一一該當スル法人中農林

業、畜產業、水產業、工業又ハ不動產

ニ關スル事業ヲ行フモノニシテ大藏大

臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ對シテハ抵

當ヲ徵セシテ定期償還貸付又ハ割賦

償還貸付ヲ爲スコトヲ得

一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル

法人

二 法令ニ依リ組織セラレタル組合又

ハ其ノ聯合會

第十六條 削除

第十八條中「鑑定シタル價格ノ三分ノ二

以内」ヲ「鑑定シタル價格以内」ニ改メ同

條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ先順位又ハ同順位ノ

抵當權者アルトキハ日本勸業銀行ノ貸

付額ヲ以テ償還セラルヘキ分アルトキ

位又ハ同順位ノ抵當權者ノ貸付金額

(先順位ノ抵當權者ノ貸付金額日本勸

業銀行又ハ之ト同順位ノ抵當權者ノ貸

付金ヲ以テ償還セラルヘキ分アルトキ

ハ之ヲ控除ス)ヲ控除シタル額以内ト

本勸業銀行法中改正法律案、日程第十五、

農工銀行法中改正法律案、日程第十七、北

海道拓殖銀行法中改正法律案、政府提出
第一讀會、是等ノ三案ヲ括シテ議題ト爲

第二十六條第一項中「貸付金償還残額ニ對シ」第十八條ノ割合ニ「ヲ「日本勸業銀行ノ貸付金償還残額又ハ先順位若ハ同順位ノ抵當權者アルトキハ其ノ貸付金償還残額トノ額ト日本勸業銀行ノ貸付金償還残額トノ合計額ニ對シ」ニ改ム

第三十一條ノ二第二項中「第十六條第一項」ヲ削ル

第三十二條第一項中「前條ノ預り金又ハ同條同項ニ左ノ一號ヲ加フ

三 第十五條第三項ノ法人ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

六 前各號ノ外大藏大臣ノ認可ヲ受ケ手形ノ割引又ハ當座預金貸越又ハ短期貸付ヲ爲スコトヲ爲スコト

同條第二項ヲ削ル

第三十二條ノ三 日本勸業銀行ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ法人ノ爲ニ金錢ノ出納又ハ有價證券ノ受拂保管ノ取扱ヲ爲スコト得

第五十六條中第二號ヲ削リ同條第三號中「預り金若ハ」ヲ削ル
同條第三號ヲ第二號トシ以下順次繰上グ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

不動産融資及損失補償法中左ノ通改正ス

第三條 削除 「貸付金額」ヲ削ル

農村負債整理資金特別融通及損失補償法中左ノ通改正ス

第三條 削除

臨時農村負債處理法中左ノ通改正ス

第十三條中「農村負債整理資金特別融通及損失補償法第三條竝ニ」ヲ削ル

通及損失補償法第三條竝ニ」ヲ削ル

農工銀行法中改正法律案
右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

位ノ抵當權者ノ貸付金中農工銀行又ハ之ト同順位ノ抵當權者ノ貸付金ヲ以テ償還セラルヘキ分アルトキハ之ヲ控除ス)ヲ控除シタル額以内トス

第十八條第一項中「貸付金償還残額ニ對シ第十條ノ割合ニ」ヲ「農工銀行ノ貸付金償還セラルヘキ分アルトキハ之ヲ控除ス)ヲ控除シタル額以内トス

シ第十條ノ割合ニ」ヲ「農工銀行ノ貸付金償還残額又ハ先順位若ハ同順位ノ抵當權者アルトキハ其ノ貸付金償還残額トノ合計額ニ對シ」ニ改ム

第三十一條中「前條ノ預り金又ハ同條第一項」ヲ削ル

三 第十五條第三項ノ法人ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

六 前各號ノ外大藏大臣ノ認可ヲ受ケ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

同條第二項ヲ削ル

第三十二條中第二號トシ以下順次繰上グ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道拓殖銀行法中改正法律案
右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

畜産業、水産業、工業又ハ不動産ニ關する事業ヲ行フモノニシテ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ對シテハ割賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

一 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニ依リ組織セラレタル組合又ハ其ノ聯合會

二 法令ニ依リ設立セラレタル組合又ハ其ノ聯合會

三 第七條ノ五ノ法人ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

六 前各號ノ外大藏大臣ノ認可ヲ受ケ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

六 前各號ノ外大藏大臣ノ認可ヲ受ケ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

六 前各號ノ外大藏大臣ノ認可ヲ受ケ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

同條第三號ヲ第二號トシ以下順次繰上グ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道拓殖銀行法中改正法律案
右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條 英機

大藏大臣 賀屋 興宣

○議長(伯爵松平賴壽君)別ニ御質疑ガナ
ウ、現行法中ニ於ケル有抵當定期貸付總額ノ制限、其ノ他ノ諸制限ヲ緩和又ハ撤廢ス
ルコト致シ、茲ニ本案ヲ提出致シマシタ
次第デアリマス、何卒御審議ノ上速力ニ協
ケレバ、三案ハ之ヲ北支那開發株式會社法
中改正法律案外一件ノ特別委員ニ併託致シ
マス

○議長（伯爵松平頼慶君）　日程第十九、稅務代理士法案、日程第二十一、社債等登錄法案、政府提出、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハヨザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（伯爵松平頼慶君）　御異議ナイト認メマス、賀屋大藏大臣

稅務代理士法案

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

内閣總理大臣　東條　英機
大藏大臣　賀屋　興宣

稅務代理士法案

第一條　稅務代理士ハ所得稅、法人稅、營業稅、其ノ他命令ヲ以テ定ムル租稅ニ關シ他人ノ委嘱ニ依リ稅務官廳ニ提出スベキ書類ヲ作成シ又ハ審査ノ請求、訴願ノ提起其ノ他事項（行政訴訟ヲ除ク）ニ付代理ヲ爲シ若ハ相談ニ應ズルヲ業トス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ稅務代理士タル資格ヲ有ス

第三條　命令ヲ以テ定ムル官廳ニ於テ高等官又ハ判任官ノ職ニ在リテ三年以上ノ限ニ在ラズ

國稅ノ事務ニ從事シタル者但シ其ノ職ヲ退キタル後一年ヲ經ザル者ハ此前各號ニ掲グル者ノ外租稅又ハ會計ニ關シ學識經驗ヲ有スル者

四　前各號ニ掲グル者ノ外租稅又ハ會計ニ關シ學識經驗ヲ有スル者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ稅務代理士タル資格ヲ有セズ

一　無能力者
二　破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

三　國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ経ザル者

四　六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ犯シ罰金又ハ科料ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者

六　國稅ヲ逋脱シ又ハ逋脱セントスル罪ヲ犯シ罰金又ハ科料ノ刑ニ處セラレ其ノ裁判確定ノ後五年ヲ經ザル者

七　懲戒ノ處分ニ因リ免官又ハ免職セラレタル後二年ヲ經ザル者

八　第五條第四號ノ規定ニ依リ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ許可ノ取消アリタル後二年ヲ經ザル者

九　第二十一條、第二十二條、第二十三條、第三號、第二十四條又ハ第二十五條ノ罪ヲ犯シ懲役又ハ罰金ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後五年ヲ經ザル者

第十條　稅務代理業ニ關シ稅務代理士ノ受クベキ報酬ハ所屬稅務代理士會ノ會議ヲ經ベシ

第十一條　稅務代理士タル處分ヲ爲主務大臣前項ノ許可ニ關スル處分ヲ爲

第十二條　稅務代理士會ハ前條第一項ノ受クベシ

第十三條　稅務代理士會ハ主務大臣ノ許可ヲ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ財務局長又ハ稅務署長ニ委任スルコトヲ得

第十四條　稅務代理士會ハ主務大臣ノ認可アリタルトキハ稅務代理士會ノ設立スル場合ニ於テハ前條第一項ノ許可ハ

第十五條　前四條ニ規定スルモノヲ除クハ失墜スル虞アル會員又ハ稅務代理士會ノ會員則ニ違反シ若ハ違反スル虞アル會員ヲ退會セシムルコトヲ得

第十六條　主務大臣ハ監督上必要アリトシムルコトヲ得

第十七條　主務大臣ハ稅務代理士會ノ目的達成上必要アリト認ムルトキハ稅務代理士會ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十八條　主務大臣ハ稅務代理士會ノ事項ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　稅務代理士會ハ共同ノ目的ヲ達スル命令若ハ稅務代理士會ノ會則ニ違反シタルトキ又ハ稅務代理士ノ品位ヲ失墜スベキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ一年以内稅務代理業ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第二十條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル職權ノ一部ヲ財務局長又ハ稅務署長ニ委任スルコトヲ得

第二十一條　第四條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ稅務代理業ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　稅務代理士會ハ稅務代理士ノ品位ノ保持及稅務代理業ノ改善進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二十三條　稅務代理士會ハ稅務代理士ノ品位ノ停

止期間内税務代理業ヲ行ヒタル者ノ罰亦同ジ

第二十二条 第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三条 税務代理士左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル事務所ヲ設ケザルトキ

二 第八條ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隠匿シタルトキ

三 第十條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

四 第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌避シタルトキ

二十四條 税務代理士第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

二十五條 税務代理士又ハ税務代理士タリシ者税務代理業ニ關シ取扱ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ故ナク漏洩シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

二十六條 税務代理士ハ其ノ使用人其ノ他ノ從業者が其ノ税務代理士ノ業務ニ關シ第二十三條第二款若ハ第三、號又ハ第二十四條ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テハ懲役刑ヲ科スルコトヲ得ズ

附 則

本法ハ公布ノ日より之ヲ施行ス
第二條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ税務代理業ヲ行フ者ノ許可ノ申請ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

本法施行ノ際現ニ税務代理業ヲ行フ者ハ本法施行ノ日ヨリ四月間ヲ限り第四條第

一項ノ規定ニ依ラズ士務大臣ノ許可ヲ受けて引續キ税務代理業ヲ行フコトヲ得

第十條ノ規定ハ税務代理士會成立スルニ至ル迄ハ之ヲ適用セズ

第六條 法令ニ依リ擔保トシテ社債ヲ供託スル場合ニ於テハ登錄ヲ爲シタル社債ニ付テハ其ノ登錄ヲ受ケ之ニ代フル

第七條 社債権者ハ登錄ヲ爲シタル社債ニ付何時ニテモ登錄ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第八條 登錄機關ハ社債登錄簿ヲ備置クコトヲ要ス

第九條 主務大臣ハ登錄事務ニ關シ登錄機關ヲ監督ス

第十條 主務大臣ハ必要アリト認ムルキハ登錄機關ヲシテ登錄事務ニ關スル報告ヲ爲シテ又ハ當該官吏ヲシテ登錄事務ヲ検査シ若ハ社債登錄簿ハノ他ノ書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テハ登錄機關ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

三、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

四、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

五、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

六、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

七、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

八、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

九、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十一、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十二、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十三、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十四、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

登錄ヲ爲シタル記名社債ヲ移轉シ若ハ之ヲ以テ擔保權ノ目的ト爲シ又ハ之ヲ信託財產ト爲シタルトキハ其ノ登錄ヲ爲シ且社債原簿ニ其ノ旨ノ記載ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ社債ヲ發行シタル會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六條 法令ニ依リ擔保トシテ社債ヲ供託スル場合ニ於テハ登錄ヲ爲シタル社債ニ付何時ニテモ登錄ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第七條 社債権者ハ登錄ヲ爲シタル社債ニ付何時ニテモ登錄ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得

第八條 登錄機關ハ社債登錄簿ヲ備置クコトヲ要ス

第九條 主務大臣ハ登錄事務ニ關シ登錄機關ヲ監督ス

第十條 主務大臣ハ必要アリト認ムルキハ登錄機關ヲシテ登錄事務ニ關スル報告ヲ爲シテ又ハ當該官吏ヲシテ登錄事務ヲ検査シ若ハ社債登錄簿ハノ他ノ書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テハ登錄機關ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

三、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

四、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

五、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

六、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

七、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

八、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

九、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

十、前條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム有價證券移轉稅法第三條申「甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テノ名義變更」ノ下ニ「社債等登錄法ニ依リ登錄シタル社債、地方債又ハ外國若ハ外國法人ノ發行スル公債若ハ社債ニ付テノ名義變更ヲ加フ」

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣(賀屋興宣君)只今議題トナリマシテ税務代理士法案外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ説明致シマス、先づ税務代理士法案ニ付説明申上ゲマス、申上ゲル迄モ

ナク租稅ハ國家財政上極メテ重要ナ地位ヲ占メテ居ルノアリマシテ、其ノ運營ノ適否ガ、直チニ國政ノ全般並ニ國民ノ利害ニ重大ナル影響ヲ與ヘルノアリマス、而シテ社會經濟情勢ハ愈々複雜多岐ニ瓦リマシテ、

之ニ伴ヒ税務行政ノ運行及ビ國民ノ經濟生活モ亦複雜且困難トナツテ參ッタノアリマス、殊ニ戰時下ニ於キマスル財政需要ノ増加ニ伴ヒマシテ、相次イデ増稅ヲ行ヒ、更ニ今回相當程度ノ增稅ノ措置ヲ行フコトヲ致シタノデアリマスルガ、此ノ傾向ハ今後モ一段ト加重セラル、方向ニアルト考ヘラレルノアリマス、從ツテ税務行政ノ適正ナル運營ヲ圖リマスコトハ、現下喫緊ノ要務

依リ設立セラレタル法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債券及命令ヲ以テ定ム外國又ハ外國法人ノ發行スル公債又ハ社債ニ之ヲ準用ス

第十五條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方法人ニシテ會社ニ非ザルモノノ發行スル債、特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル

第十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第十八條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第十九條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十一條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十二條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十三條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十五條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十八條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第二十九條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十一條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十二條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十三條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十五條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十六條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

第三十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外登錄竝ニ登錄ヲ爲シタル社債、地方

デアルノデアリマス、此ノ見地ヨリ致シマシテ、新タニ税務代理士法ヲ制定シ、税務代理士ノ制度ヲ設ケ、其ノ素質ノ向上ヲ圖御底ヲ期シ、之ニ依リ戰時ニ於ケル税務行政ノ圓滑ナル運用ニ資セムトスルノデアリマス、即チ本法案ニ於キマシテハ、税務代理士ノ素質ノ向上ヲ圖リ、其ノ業務ノ公正ヲ期スル爲、税務代理士ノ資格ヲ限定シ、一定ノ資格ヲ有スル者ガ主務大臣ノ許可ヲ受ケタ場合ニ限り、税務代理士タルコトヲ得ルコトト致シマシテ、同時ニ税務代理士ニミ限リマシテ、所得税、法人税其ノ他ノ租税ニ關シ、他人ノ委嘱ニ依リ税務官廳ニ提出スペキ書類ヲ作成シ、審査ノ請求等的ニ品位ノ保持、税務代理業ノ改善進歩ヲ図ラシメ、又是等ノ者が受クベキ報酬ニ付キマシテモ取締ヲ爲スコトトシ、而シテ是等ノ者が國税ノ逋脱ニ付指示ヲ爲シ、相談ニ應ジ、不當ノ報酬ヲ受ケタ場合等ニ於キマシテハ、許可ノ取消又ハ業務ノ停止ノ處分ヲ爲ス外、特ニ罰則ヲ適用スルコトト致シタノデアリマス、次ニ社債等登録法案ニ付説明申上ゲマス、本法案ハ、戰時下ニ於ケル資金ノ蓄積及金融機關ノ資金ノ合理的の運用ノ緊要ナルニ顧ミマシテ、社債等ノ保有者ニ對シ、租税上ノ特典ヲ與ヘマス等ノ爲、新タニ社債等ノ登録制度ヲ設ケムトスルモノデアリマス、即チ別ニ提出致シマスル臨時租税措置法中改正法律案及國民貯蓄組合法中改正法律案ニ於キマシテハ、登録ヲ爲シタル公社債等ノ保有者ニ對スル分類所得税ヲ輕減又ハ免除スルコトト致シダノデアリマス

ガ、是等ノ措置ヲ講ズル必要上、茲ニ新タニ國債登録制度ニ倣ヒ、社債等ノ登録制度ヲ設ケムトスルモノデアリマス、以上申述ベマシタ趣旨ニ依リ本制度ヲ創設セムトスルモノデアリマスルガ、本制度ノ設ケラレ化、高級印刷能力ノ節約等ニ資スル所モ尠クナイト存ズル次第アリマス、以上二件ノ法律案ニ付キマシテハ何卒御審議ノ上速力ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス○子爵戸澤正己君只今上程セラレマシタ税務代理士法案外一件ノ特別委員ハ、國民貯蓄組合法中改正法律案ノ委員ニ併託セラレムコトノ勧議ヲ提出致シマス○子爵秋田重季君賛成○議長(伯爵松平頼壽君)戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ〔異議ナシト呼フ者アリ〕○議長(伯爵松平頼壽君)御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君)日程第二十三、兵役法及共通法中改正法律案、日程第二十五、退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ〔異議ナシト呼フ者アリ〕○議長(伯爵松平頼壽君)御異議ナイト認メマス

第一條 兵役法中左ノ通改正ス
第一條 第一補充兵役ハ十七年四月ト現役ニ適スル者ノ中現役兵又ハ第一補充兵トシテ徵集セラレザル者之ニ服ス
第一條 第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
第一條 第二十四條ノ二前二條ニ規定スル年齡及時期ハ戰時又ハ事變ノ際其ノ他特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得
第一條 第三十九條第一項ニ左ノ一號ヲ加ブ
第一條 第六十條中「及補充兵」ヲ「補充兵及國民兵」ニ改ム
第一條 第六十一條中「又ハ補充兵」ヲ「補充兵又ハ國民兵」ニ改ム
第一條 第六十九條第一項中「兵役(第二國民兵役ヲ除ク)ニ在ル者」ヲ「兵役ニ在ル者」ケザル者ヲ除クニ改ム
第一條 共通法中左ノ通改正ス
第一條 第三項ヲ左ノ如ク改ム
第一條 戸籍法ノ適用ヲ受クル者ハ兵役ニ服スルノ義務ナキニ至リタル者ニ非サレハ他ノ地域ノ家ニ入ルコトヲ得ス

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條英機
陸軍大臣 井野碩哉
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則
第一條 兵役法及共通法中改正法律案
○國務大臣(東條英機君)只今議題ニ相成リマシタ兵役法及共通法中改正法律案ノ提出理由ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、尙海軍關係ノ事項モアリマスルガ併セテ申述ベマス、改正ノ第一ハ、海軍ノ第一補充兵役期間ノ延長デゴザイマス、現在海軍ノ第一補充兵役ハ一年デアリマスルガ、戰時要員補充上ノ必要ニ依リマシテ、之ヲ陸軍同様支那事變勃發以來、出戰兵力ハ逐次增加致シテ居ルノデアリマス、幸ニシテ戰局ハ極メテ有利ニ進展ラシ、兵員ノ損耗亦豫想以上ニ僅少デアリマスルガ、政府ト致シマシテハ、最惡ノ事態ニ對處シ得ベキ萬全ノ方策ヲ常ニ攻究シ、準備シ置カナケレバナラ

又コトハ申ス迄モナキコトデゴザイマシテ、豫想セラル、最悪ノ事態ヲ設想致シマスルニ、兵備資源ノ現況ハ必ズシモ樂觀ヲ許サヌモノガアルノデアリマス、從ヒマシテ兵員補充上ノ必要ニ依リ、或ハ徵兵検査ノ實施ヲ早メ、又ハ更ニ進ミマシテ、徵兵適齡ヲ低下セナケレバナラスト云フ事態モ起ルコト、必ズシモ豫想セラレヌコトデハナイノデアリマシテ、斯クノ如キ必要アル場合ニ於キマシテハ、隨時敏速ニ徵兵適齡、又ハ徵兵適齡届ノ提出期日ヲ變更シ得ルノ途ヲ開キ置カウトスルノデアリマス、第3ハ、國民兵ノ取扱ニ關スルモノデアリマス、國民兵ノ戰時ニ於ケル必要性ハ、從來ニ比シマシテ頗ル増大致シテ參リマシタノデ、其ノ召集準備等ニ遺憾ナカラシムル爲ニ、國民兵ニ對シマシテモ、平時簡闇點呼ヲ行ヒ得ル如ク致シマスルト共ニ、第二國民兵役ニ在ル者ニ付キマシテモ、戸籍ニ兵役ノ略符号ヲ附サウト致スノデアリマス、尙戸籍法ノ適用ヲ受ケテ居ル者ハ、齊シク兵役義務者デアルニ拘ラズ、特ニ其ノ制限カラ除外セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ第二國民兵ト雖モ戰時其ノ心要性ハ著シケ增加シテ參リマシタノデ、今後ハ假令第二國民兵ト雖モ、他ノ兵役義務者同様、兵役ニ服スルノ義務無キニ至ッタ後デナケレバ他ノ地域ノ家ニ入ルコトハ出來ナイヤウニ致ス必要ガアルノデアリマス、新タニ豫防拘禁ニ關シマスル規定ガ加ヘラレタノデアリマスルガ、此ノ治安維持法ニ依ル豫防拘禁中ハ徵集ノ延期ヲ爲シ得ルコ

トト致サムトスルノデアリマス、本法律案

提出ノ理由ハ概要以上ノ通リデゴザイマス、次ニ退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル法律案

デアリマス、退役將校ノ豫備役復歸ニ關スル法律案ノ提出理由ハ次ノ通りデアリマス、支那事變勃發以來、陸軍ノ出戰兵力ハ逐次

増大致シマシテ、之ニ伴ヒマシテ軍隊幹部ノ所要數ハ著シク増加致シマシタ、其ノ在鄉

資源モ漸次減少シツ、アル狀況デアリマス、之ガ爲軍隊幹部ノ増加養成ニ關シマシテハ有ラユル手段方法ヲ講ジテ居ル次第デアリ

マシテ、曩ニ大學學部、專門學校等ノ在學年限又ハ修業年限ヲ短縮致シマスルト共ニ、臨時徵兵検査ヲ行シテ、速力ニ入營セシムルノ措置ヲ執リマシタノモ、全ク幹部急速補充ノ必要ニ基イタノデアリマス、而シテ現在幹部候補生出身將校ノ服役ハ、年齡五十年ニ満ツル年ノ三月三十一日迄定メラレテ居リマスルガ、是ト本質全ク同一ナル從前ノ一年志願兵又ハ一年現役兵出身將校ノ服役期間ハ十七年四箇月デアリマシテ、幹部候補生出身將校ノ服役ニ比シマシテ可ナリ短カカツタノデアリマス、然ルニ以上申述ベマシタルヤウニ、國軍ノ現況ハ幹部ノ補充ニ特別ノ手段ヲ要スル状況デアリマスノデ、一年志願兵又ハ一年現役兵出身將校ノ中、既ニ退役トナツテ居ル者ヲ豫備役ニ復歸セシメマシテ、幹部候補生出身將校ト同程度ノ服役ニ服セシムトスルノデアリマス、本法律案提出ノ理由ハ以上ノ通りデゴザイマス、何卒兩者御審議ノ上速カニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君)　別ニ御質疑ガナケレバ、兩案ハ之ヲ恩給法中改正法律案ノ特別委員ニ併託致シマス
○議長(伯爵松平賴壽君)　別ニ御質疑ガナケレバ、兩案ハ之ヲ恩給法中改正法律案ノ特別委員ニ併託致シマス
○議長(伯爵松平賴壽君)　日程第一二七、陸軍刑法中改正法律案、日程第二十九、陸軍刑法中改正法律案外一件 第一讀會

軍軍法會議法中改正法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲ス
コトニ御異議ハゴザイマセヌカ
メマス、東條陸軍大臣
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

第五十七條第二號中「一年以上七年以下ノ禁錮」ヲ「一年以上十年以下ノ禁錮」ニ、同條第三號中「三年以上ノ禁錮」ヲ「無期又ハ七年以上ノ禁錮」ニ改ム

「一年以上十年以下ノ禁錮」ヲ「五年以下ノ禁錮」ニ改ム

「一年以上十年以下ノ禁錮」ニ、「五年以下ノ禁錮」ヲ「七年以下ノ禁錮」ニ改ム

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

陸軍刑法中改正法律案
陸軍刑法中左ノ通改正ス
目次中「第五章 暴行脅迫ノ罪」ヲ「第五章 暴行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
ニ改ム
第十條中「陸軍將校相當官」ヲ削ル
第十條中「下士」ヲ「下士官」ニ、「陸軍下士」ヲ「陸軍下士官」ニ改ム
第十六條中「兵卒」ヲ「兵」ニ、「下士勤務上等兵」ヲ「下士官勤務ノ兵」ニ改ム
第十二條中「兵卒」ヲ「兵」ニ改ム
第十三條中「同相當官」ヲ削ル
第十四條中「豫備又ハ」ヲ削ル
但シ戰地以外ノ地ニ在ル部隊ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
第五十五條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改
第一敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス
第六十三條ノ三　上官ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處ス
第六十三條ノ四　前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上
ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二条中「第六十條乃至第七十條」ヲ
「第六十條乃至第六十三條、第六十三條」ノ

三及第六十四条乃至第七十條」ニ改ム

第七十五条第二號中「五年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ヲ「六月以上七年以下ノ懲役又ハ
禁錮」ニ、同條第三號中「二年以下ノ懲役
又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ禁錮」

ニ改ム

第七十六条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「無期若ハ五年以上ノ懲
役又ハ禁錮」ニ、「六月以上七年以下ノ懲
役又ハ禁錮」ヲ「一年以上十年以下ノ有期
懲役又ハ禁錮」ニ、「三年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十七条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十八条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十九條第一號中「船舶」ノ下ニ「航空機、戰
車」ヲ、「電車」ノ下ニ「自動車」ヲ加フ

第八十一条ノ二 陸軍ノ航空機ヲ墜落、
顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者
ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十八條ノ二 戰地又ハ帝國軍ノ占領
地ニ於テ婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又
ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ
無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致
シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以
上ノ懲役ニ處ス

第九十七条第一項中「三年以上ノ懲役」ヲ
「五年以下ノ懲役」ニ改メ同條第二項ヲ左
ノ如ク改ム

在郷軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項
ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役

役ニ處ス

第九十九條中「三年以下ノ禁錮」ヲ「七年
以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第七十條乃至第七十條」ヲ

ハ禁錮」ヲ「六月以上七年以下ノ懲役又ハ
禁錮」ニ、同條第三號中「二年以下ノ懲役
又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ禁錮」

ニ改ム

第七十六条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「無期若ハ五年以上ノ懲
役又ハ禁錮」ニ、「六月以上七年以下ノ懲
役又ハ禁錮」ヲ「一年以上十年以下ノ有期
懲役又ハ禁錮」ニ、「三年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十七条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十八条第一號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又
ハ禁錮」ニ改ム

第七十九條第一號中「船舶」ノ下ニ「航空機、戰
車」ヲ、「電車」ノ下ニ「自動車」ヲ加フ

第八十一条ノ二 陸軍ノ航空機ヲ墜落、
顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者
ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十八條ノ二 戰地又ハ帝國軍ノ占領
地ニ於テ婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又
ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ
無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致
シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以
上ノ懲役ニ處ス

第九十七条第一項中「三年以上ノ懲役」ヲ
「五年以下ノ懲役」ニ改メ同條第二項ヲ左
ノ如ク改ム

在郷軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項
ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役

陸軍ノ法務部將校ニ任ゼラレザルモノハ退
職ノ陸軍法務官トシテ本法施行後ト雖モ
其ノ官ヲ保有セシム其ノ身分取扱ニ關シ
テハ從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際陸軍法務官（兼官ヲ含ム以
下同ジ）ヨリ陸軍ノ法務部將校ニ任ゼラ
レタル者ニ對シ恩給法第三十條ノ規定ヲ
適用スル場合ニ於テハ其ノ陸軍法務官ト
シテノ在職年ノ計算ニ付テハ同條中十分
ノ七十アルハ十七分ノ十三トス

勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除
クノ外他ノ法律中陸軍ノ理事トアリ又ハ
陸軍法務官トアルハ法務官タル陸軍ノ法
務部將校トス

本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

（國務大臣東條英機君演壇ニ登ル）

○國務大臣（東條英機君） 只今上程セラレ
マシタ陸軍刑法中改正法律案ノ提出ノ理由
ヲ御説明申上げマス、現行陸軍刑法ハ明治
四十年ヨリ施行セラレマシテ、爾來一回
ノ改正モ見ズシテ三十餘年ヲ經テ今日ニ至ッ
テ居ルノデアリマスガ、時勢ノ推移、又戦
争形態ノ變遷、支那事變ノ經驗、是等ニ鑑
ミマシテ、又最近ノ一般ノ刑罰法ノ改正等
ニ微シマシテ、戰時下特ニ緊要ナル規定ヲ
新設又ハ整備致シマシテ、以テ軍紀ヲ愈振
肅シ、大東亜戰爭ノ完遂ニ遺憾ナキヲ期セ
ムトスルモノデアリマス、而シテ改正ノ主
要ナルモノハ五點デアリマシテ、第一ハ、軍
中ト云フモノノ定義規定ヲ整備スルコト、
第二ハ、從軍及兵役ヲ免レムトスル所ノ罪、
抗命ノ罪、逃亡ノ罪竝ニ造言飛語ノ罪ノ刑
ヲ加重スルコト、第三ハ、上官ニ對スル加
害ノ罪ヲ設クルコト、第四ハ、軍用物損壞
ノ罪ノ規定ヲ整備スルコト、第五ハ、戰地
又ハ占領地ニ於キマスル所ノ姦淫ノ罪ヲ設
クルコト、以上ガ本法律案ヲ提出スルニ至
一任スルノ勅議ヲ提出致シマス

リマシタ理由ノ趣旨デゴザイマス、次ノ陸
軍軍法會議法中改正法律案デゴザイマスガ、
此ノ提出ノ理由ハ、軍法會議ガ特別裁判所
トシテ軍ニ設置セラレアル所以ノモノハ、
司法權ト統帥トヲ密接不可分ノ關係ニ置キ
マシテ、司法權ノ作用ノ上ニ、統帥上ノ要
求ヲ全幅的ニ反映セシムガ爲デアル信
ブルノデアリマス、之ガ爲ニハ軍司法ノ運
營ヲ本務ト致シマスル法務官ヲシテ統帥上
ノ要求ヲ十分ニ理解シ得ル武官ト致シマシ
テ、一層軍事ニ精通シ、身ヲ以テ軍紀ニ徹
スル軍人タラシメマシテ、以テ大東亜戰爭
ノ下愈、重大ヲ加ヘツ、アリマスル軍司法ノ
運營ヲ建軍ノ本旨ト統帥ノ要求トニ添徹セ
シメマシテ、益其ノ完璧ヲ期スルノ要アリ
ト存ズルノデアリマス、即チ陸軍軍法會議
法ニ規定セラレテアリマスル所ノ軍法會議
ノ職員中、文官デアリマスル陸軍法務官ヲ
廢シマシテ、軍法會議法務官トシテノ職ハ、
陸軍武官タル法務部將校ヲ以テ之ニ充テル
コトニ致シタルトイ思フノデゴザイマス、而
シテ法務部將校ノ補充、服役、分限、徵罰
等ハ、總テ陸軍ノ將校ニ關シマズル規定ノ
適用ヲ受クルモノト致シマシテ、之ニ關係
アル現行法第三十一條、第三十五條乃至第
四十一條等ノ規定ヲ整備セムトスルモノデ
ゴザイマス、次ニ高等軍法會議ノ裁判官デ
アリマス所ノ判士ノ區分ニ付キマシテ、現
行法第五十一條ノ一部ノ改正ヲ行ヒマシテ、
運用ノ適正ヲ期セシメムトスルモノデアリ
マス、以上ガ本法律案ヲ提出致シマシタ理
由ノ要旨デゴザイマス、兩者何卒御審議ノ
上速カニ御協賛アラムコトヲ御願ヒ致シマ
ス。

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
陸軍刑法中改正法律案外一件ノ特別委員ノ
數ヲ十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニモ亦
之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ依
リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨げズ
本法施行ノ際現ニ陸軍法務官タル者ニシテ
クルコト、以上ガ本法律案ヲ提出スルニ至
一任スルノ勅議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ勅議
ニ御異議ハ「ザイマセスカ」
〔近藤書記官朗讀〕

陸軍刑法中改正法律案外一件特別委員
候爵中御門經恭君 侯爵東郷彪君
伯爵山本清君 子爵伊東一郎丸君
子爵大島陸太郎君 織田萬君
男爵淺田良逸君 内田重成君
坂西利八郎君 男爵柴山昌生君
長谷川赳夫君 男爵奥田剛郎君
唐澤俊樹君 大谷五平君
飯塚知信君

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第三十一、
船舶保護法中改正法律案、政府提出、第一
讀會、嶋田海軍大臣

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
右

内閣總理大臣 東條英機
農林大臣 井野碩哉
兼務大臣 島田繁太郎
海軍大臣 寺島健

○國務大臣(島田繁太郎君) 船舶保護法中
改正法律案ノ提出理由ヲ説明申上ゲマス、
御協賛ヲ經マシタモノデゴザイマスガ
〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著
ク〕

〔國務大臣島田繁太郎君演壇ニ登ル〕
○國務大臣(島田繁太郎君) 船舶保護法中
改正法律案ノ提出理由ヲ説明申上ゲマス、
ニ御異議ハ「ザイマセスカ」
〔副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著
ク〕

今回應信省管船局ガ改組セラマンテ、新タ
ニ海務院ガ設置サル、コトトナリマシテ、
其ノ機構ガ頗る擴大強化セラル、ニ至リマ
シタノミナラズ、其ノ職員中所要ノ位置
ニ、海軍ノ現役士官ヲ配員セラル、コトトナ
リマシタノデ、船舶保護法第三條第一項及
第四條第二項ノ規定ニ依ル海軍大臣ノ職
權ノ一部ヲ、必要アルトキ海務院長官ヲシ
テ行ハシメマスルヲ適當トスルコト相成
タ次第ゴザイマス、何卒御審議ノ上御協
賛アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御質疑ガナ
ケレバ、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サ
セマス
〔高山書記官朗讀〕

船舶保護法中改正法律案特別委員會委員
内閣總理大臣 東條英機
農林大臣 井野碩哉
兼務大臣 島田繁太郎
海軍大臣 寺島健

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第三十
船舶保護法中改正法律案
第十條ノ二 海軍大臣ハ必要アルトキハ
命令ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項及
第四條第二項ニ規定スル職權ノ一部ヲ
海務院長官ヲシテ行ハシムルコトヲ得
附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
ト認メマス、島田海軍大臣
右 海軍刑法中改正法律案
内閣總理大臣 東條英機
海軍大臣 島田繁太郎

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日
海軍刑法中改正法律案
内閣總理大臣 東條英機
海軍大臣 島田繁太郎

右 海軍刑法中改正法律案
内閣總理大臣 東條英機
海軍大臣 島田繁太郎

〔第五章 暴行脅迫ノ罪〕ヲ「第五章・暴
行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
第五十八條 上官ヲ傷害シ又ハ之ニ對シ
暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別
ニ從テ處斷ス

〔第五章 暴行脅迫ノ罪〕ヲ「第五章・暴
行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
第五十九條第二號中「五年以上ノ有期ノ
懲役又ハ禁錮ニ處ス」
二 其ノ他ノ場合ナルトキハ十年以下
ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

〔第五章 暴行脅迫ノ罪〕ヲ「第五章・暴
行脅迫及殺傷ノ罪」ニ改ム
第六十條中「上官ニ對シ兵器又ハ兎器ヲ
用キテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者」ヲ「兵
器又ハ兎器ヲ用キテ第五十八條ノ罪ヲ犯
シタル者」ニ改ム

〔第六十一條ノ二 前四條ノ罪ヲ犯シ因テ
上官ヲ死ニ致シタル者ハ左ノ區別ニ從
テ處斷ス
一 敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ
五年以上ノ懲役ニ處ス
二 戰時ナルトキハ六年以上七年以下
ノ懲役ニ處ス
三 其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下
ノ懲役ニ處ス
刑ニ處ス

〔第六十一條ノ四 前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ
以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上
ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第七十條中「第五十八條乃至第六十八條」
ヲ「第五十八條乃至第六十一條、第六十一
條ノ三及第六十二條乃至第六十八條」ニ

〔第六十一條ノ四 前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ
以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上
ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第七十條中「第五十八條乃至第六十八條」
ヲ「第五十八條乃至第六十一條、第六十一
條ノ三及第六十二條乃至第六十八條」ニ

〔第六十一條ノ四 前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ
以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以上
ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第七十條中「第五十八條乃至第六十八條」
ヲ「第五十八條乃至第六十一條、第六十一
條ノ三及第六十二條乃至第六十八條」ニ

改ム

第七十三條第一號中「五年以下ノ懲役又ハ禁錮」ヲ「六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ、同條第三號中「二年以下ノ懲役又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ禁錮」

ニ改ム
又ハ禁錮」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第七十四條第一號中「五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮」ヲ「無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮」ニ、「六年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮」ヲ「六年以上七十年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ、「六年以上二十年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ、「六年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮」ヲ「一年以上七十年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ、「一年以上二十年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ、「一年以上七十年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第七十八條中「艦船」ノ下ニ「航空機、戰車」ヲ、「電車」ノ下ニ「自動車」ヲ加フ

第八十一条ニ左ノ一項ヲ加フ
海軍ノ航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者亦前項ニ同シ

〔第九章 捜査ノ罪〕ヲ〔第九章 捜査及強姦ノ罪〕ニ改ム

第八十八條ノ二 戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以

上ノ懲役ニ處ス

第九十六條中「歸休下士官兵及現役以外ノ兵在ル者」ヲ「歸休下士官兵及現役以外ノ兵役ニ在ル者」ニ改ム
歸休下士官兵及現役以外ノ兵役ニ在ル者召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ノ如ク改ム

〔五年以下ノ懲役〕ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
本法施行ノ際現ニ海軍法務官タル者ニシテ前項ノ規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處

第百條中「三年以下ノ禁錮」ヲ「七年以下ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前刑法第二十二章ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ第八十八條ノ第二項ノ改正規定ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖モ告訴アルニ非ザレバ其ノ罪ヲ論ゼズ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

本法施行前刑法第二十二章ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ第八十八條ノ第二項ノ改正規定ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖モ告訴アルニ非ザレバ其ノ罪ヲ論ゼズ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 法務官ハ司法官試補タルノ資格ヲ有シ勅令ノ定期ム所ニ依リ實務ヲ修習シタル海軍ノ法務科士官ヲ以テ之ニ充ツ

本法施行ノ際海軍法務官（兼官ヲ含ム以

下同ジ）ヨリ海軍ノ法務科士官ニ任ゼラレタル者ニ對シ恩給法第三十條ノ規定ヲ

適用スル場合ニ於テハ其ノ海軍法務官トシテノ在職年ノ計算ニ付テハ同條中十分

第五十二条第二項第一號中「尉官一人」ノ下ニ「又ハ將官一人佐官一人尉官一人」ヲ加フ

ノ七トアルハ十七分ノ十三トス

第六十三条第一項第一號中「尉官一人」ノ下ニ「又ハ將官一人佐官一人尉官一人」ヲ加フ

ノ七トアルハ十七分ノ十三トス

第六十九條中「法務官試補」ヲ「實務修習

中ノ法務科士官」ニ改ム

府軍法會議ニ改ム

第六十九條中「法務官試補」ヲ「實務修習

中ノ法務科士官」ニ改ム

第七十條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第八條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第九條第一項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ、同項但書中「要港部」ヲ「警備府」ニ改ム

第十條第三項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第十三條第一號中「海軍區」ヲ「警備區」ニ改ム

第十四條中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第五百二十一條第一項、第四百二十條及第

四百六十一條第二項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

第九十六條第一項但書中「法務官試補」ヲ「實務修習中」ノ法務科士官」ニ改ム

第三百二十一條第一項、第四百二十條及第

四百六十一條第二項中「要港部軍法會議」ヲ「警備府軍法會議」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前ニ生ジタル事件ニモ亦之ヲ適用ス

命ノ罪、逃亡ノ罪、從軍ヲ免レ又ハ危険ナ

テ海軍ノ法務科士官ニ任ゼラレタル者ハ退職ノ海軍法務官トシテ本法施行後ト雖モ其ノ官ヲ保有セシメ其ノ身分取扱ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本法施行ノ際海軍法務官（兼官ヲ含ム以

下同ジ）ヨリ海軍ノ法務科士官ニ任ゼラレタル者ニ對シ恩給法第三十條ノ規定ヲ

適用スル場合ニ於テハ其ノ海軍法務官トシテハ從前ノ例ニ依ル

（國務大臣鷲田繁太郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（鷲田繁太郎君）只今議題トナ

リマシタ海軍刑法中改正法律案及海軍軍法會議法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明申上ダマス、現行海軍刑法ハ明治四十一年ノ制定ニ係リマシテ、爾來三十

有餘年、一回ノ改正ヲ見ズシテ今日ニ至ッタモノデアリマスガ、時勢ノ變遷、戰爭形態

ノ進歩、新兵器ノ採用等ニ伴ヒマシテ、其ノ全般ニ亘シテ改正ヲ考慮スベチ箇所ガ尠

カラザルヤニ認メラル、ノデアリマス、海軍刑法ハ刑法ト相關聯スル所ガ多ク、彼此

支那事變ノ經驗等ニ鑑ミ、特ニ緊急ナル部

分ニ付テノミ改正セムトスモノデアリマス、其ノ主モナル點ハ六點デゴザイマス、

第一ハ、兵役法ノ改正其ノ他制度ノ改変

ニ伴ヒ、海軍軍人ノ名稱例ニ關スル規定等

ヲ改正シタルコトデゴザイマス、第二ハ、抗

命ノ罪、逃亡ノ罪、從軍ヲ免レ又ハ危険ナ

ル勤務ヲ避ケル罪、兵役ヲ免ル、罪等、主
要ナル軍紀犯罪ノ刑ノ一部ガ稍々輕キニ失
シ、一般警戒的效果ニ乏シキ憾ガアリマス
ルノデ、是等ノ罪ノ刑ヲ強化シ以テ軍紀ノ振
肅ニ遺憾ナキヲ期シタルコトデアリマス、
第三ハ、上官ニ對スル殺傷ノ罪ハ、現行法
制ノ下ニ於キマシテハ刑法ノ規定ニ委シテ
居ルノデアリマスガ、斯カル罪ハ軍紀侵害
ノ甚ダシキモノデアリマスカラ、軍事犯ト
シテ海軍刑法中ニ規定スルノ要アリト認メ
ラレマスノデ、上官殺傷ノ罪ニ關スル規定
ヲ設ケタコトデアリマス、第四ハ、最近目
覺マシイ進歩ヲ遂ゲ、顯著ナル功績ヲ擧ゲ
ツ、アル軍用航空機、戰車、自動車ノ保護
ニ關シ現行法上不備ノ點ガアリマスノデ、
軍用物損壊ノ罪ノ章中ニ此ノ點ヲ敷備致シ
タコトデアリマス、第五ハ、戰地又ハ占領
地ニ於テ婦女ヲ強姦スル罪ハ、戰地又ハ占
領地ノ治安確保ニ任ズル軍ノ威信ヲ損スル
ト共ニ、軍紀ヲ紊ルコト大ナルモノナルニ
鑑ミマシテ、之ヲ軍事犯トシテ非親告罪タ
ラシムルノ要ガアリマスノデ、刑法ノ姦淫
罪ノ特別規定トシテ、戰地又ハ占領地ニ於
ケル婦女強姦ノ罪ヲ新設シタコトデアリマ
ス、第六ハ、近代戰ガ宣傳戰ノ一面ヲ備ヘ
テ居ルコトニ對處スル爲、軍事ニ關スル造
言飛語ノ罪ノ刑ヲ引上げ、以テ宣傳戰乃至
ハ敵ノ謀略ニ對スル専備ヲ完カラシメムトシ
タコトデアリマス、次ニ海軍軍法會議法中
改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ申
上ゲマス、本改正法律案ノ主ナル點ハ、三
點デゴザイマス、第一ハ海軍軍法會議ノ職
員中海軍法務官ヲ武官ニ改メ、是ガ關係法
規ヲ整備シタコトデアリマス、軍法會議ガ
特設裁判所トシテ設置セラレテ居リマスノ
ハ、二ニ司法權ノ運用ニ付、軍紀ノ維持振肅
ト云フ軍給帥上ノ要求ヲ全面的ニ反映セシ

メンガ爲デアリマス、之ガ爲ニハ現行制度
ノ下ニ於テモ海軍大臣、鎮守府司令長官、
整備府司令官、艦隊司令官等ヲシテ、
軍法會議ノ長官トシテハ訴及捜査ノ指揮ニ
當ラシムル外、審判機關タル軍法會議ノ裁
判官ニハ將校タル判士ヲ以テ其ノ大部分ヲ
占メシムル等ノ方法ヲ議シテ居リマスガ、
眞ニ軍裁判ノ本質ヲ發揮スル爲ニハ、全裁
判官ガ軍統帥ノ要求ヲ最モ理解セル軍人タ
ルコトガ一層適切デアリマシテ、是ガ軍法
會議トシテ最モ適當ナル制度ト認メラレル
ノデアリマス、沿革ニ徴シマスルニ、現行
海軍軍法會議法ノ前身タル海軍治罪法時代
ニハ、右ノ見地ヨリ裁判官ハ將校タル判士
長、判士ノミヲ以テ之ニ充テ、法律専門家
タル主理ハ助言者タルノ地位ニ立ツニ渾ギ
ナカツタノデアリマス、併シナガラ軍法會議
法ノ制定ニ依リ軍司法ノ整備サル、ニ伴
ヒ、裁判官中ニ専門法官ヲ加フルコトガ必
要トナルニ至リマシタノデ、専門法官ニシ
テ文官タル海軍法務官ヲ裁判官中ニ加フル
珊瑚度ガ出來タ譯デアリマスガ、此ノ文
官裁判官制度ニテハ尙十分ナラザルヤノ感
ガアリマスノデ、今次大東亞戰爭ヲ遂行ス
ルニ當リマシテハ、軍司法ヲシテ更ニ其ノ
本質ニ徴シ紹帥ノ要求ニ即應シ間然スル所
ナカラシムル爲、文官タル海軍法務官ヲ廢
シ専門法律家ニシテ將校相當官タル法務科
士官ヲ以テ之ニ代ラシムルコトトシ、之ニ
伴フ所要ノ規定ヲ整備シタ次第デアリマス、
第二ハ、要港部令ノ改正、商港整備府令、
鎮守府及整備府ノ警備區ノ制定等、諸制度
ノ改変ニ伴ヒマシテ、海軍軍法會議法中改
正スペキ箇處ガゴザイマスノデ、所要ノ改
正ヲ加ヘタコトデアリマス、第三ハ、大東
亞戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、戰地又ハ占領
地中、海軍司法警察官タル憲兵ノナイ場合

モ考ヘラレマスノデ、海軍大臣ハ海軍ノ武
官又ハ文官中ヨリ海軍司法警察官トシテ勤
務スル者ヲ指定シ得ル規定ヲ設ケ、以テ斯
カル不便ヲ除去セムトシタコトデアリマス、
以上申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、本改
正法律案ヲ提出致シマシタ次第ゴザイマ
ス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラ
レムコトヲ希望致シマス
○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ
海軍軍法會議法ノ改正法律案外一件ハ、陸軍刑法
中改正法律案外一件ノ特別委員ニ併託セラ
レムコトノ動議ヲ提出致シマス
○子爵秋田重季君 賛成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ
副議ニ御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ
ト認メマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ
ト認メマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第三十
七、民法中改正法律案、日程第三十九、不
動產登記法中改正法律案、日程第四十一、
戰時民事特別法案、日程第四十三、戰時刑
事特別法案、政府提出、第一讀會、是等ノ
四案ヲ括シテ議題ト爲スコトニ御異議ゴ
ザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ
ト認メマス、岩村司法大臣
民法中改正法律案
右
昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條 英機
司法大臣 岩村 通世

ム
四 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ女
ト雖キ嫡出子及ヒ庶子ヲ先ニス
第九百七十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ノ適用ニ付テハ胎兒ハ既ニ
生マレタルモノト看做ス但死體ニテ生
マレタルトキハ此限ニ在ラス
第九百九十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
第九百七十四條第二項ノ規定ハ前項ノ
場合ニ之ヲ準用ス

第十四條中「庶子及ヒ私生子」ヲ「嫡出ニ非サル子」ニ改ム

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

又ハ母ガ本法施行前ニ死亡シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二條 第八百三十五條ノ改正規定ハ父九十五條第二項ノ改正規定ハ相續人タルベキ者ガ本法施行前ニ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但シ本法施行前相續ガ開始シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 戸籍法中左ノ通改正ス

第六十九條第二項第二號中「私生子」ヲ「嫡出子」ニ改ム

第七十二條第二項中「私生子出生ノ届出」ヲ「嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ出生ノ届出」ニ改ム

第八十一條中「私生子認知」ヲ「認知」ニ改ム

第五條 人事訴訟手續法中左ノ通改正ス

第二十九條ノ二 子ノ認知ノ訴ニ於テ父又ハ母ヲ以テ相手方トス

第三十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加メ

ノ認知」ニ改ム
第六條 法例中左ノ通改正ス

第十八條第一項中「私生子認知」ヲ「子ノ認知」ニ改ム

不動産登記法中改正法律案
右 不動産登記法中改正法律案
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス
昭和十七年一月十八日

内閣總理大臣 東條 英機
司法大臣 岩村 通世

不動産登記法中改正法律案
不動産登記法中左ノ通改正ス

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
登記所ハ建物ニ付キ所有權ノ保存、移轉若クハ登記名義人ノ表示ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ記

第三十七條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ由請書ニハ家屋番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條第二項中「敷地ノ番號」ノ下ニ「又ハ家屋番號」ヲ加フ
第九十二條中「敷地ノ新番號」ノ下ニ「若クハ新家屋番號」ヲ、「且」ノ下ニ「建物ノ番號」ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ヲ除ク外家屋臺帳本ヲ添附シ尙」ヲ加フ
第一百條中「敷地ノ番號」ノ下ニ「若クハ家屋番號」ヲ加フ

第九十一條第二項中「敷地ノ番號」ノ下ニ「又ハ家屋番號」ヲ加フ

第一百條ノ二第一項中「土地ノ番號」ノ下ニ「又ハ家屋番號」ヲ、「土地臺帳所管廳」ノ下ニ「又ハ家屋臺帳所管廳」ヲ加フ

第一百六條 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第一 战時民事特別法
第一章 通則
司法大臣 岩村 通世

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日

戦時民事特別法案

内閣總理大臣 東條 英機
司法大臣 岩村 通世

年十二月三十一日以前ニ滅失シタルモノヲ除クニ付本法施行後最初ニ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ由請書ニ家屋臺帳謄本ヲ添

附スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ登記用紙中表示欄ニ家屋番號ヲ記

請ヲ爲ス者ハ由請書ニ家屋臺帳謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

家屋稅ヲ課セザル建物ニ關スル登記ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ建物ガ家屋稅ヲ課スル建物ト爲リタルトキハ家屋臺帳所管廳ハ遲滯ナク其ノ建築物ノ所在、家屋番號、種類、構造、床面積並ニ所有者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於

テハ登記官吏ハ登記用紙中表示欄ニ家屋番號ヲ記載スルコトヲ要ス

家屋稅法ヲ施行セザル地域ニ在ル建物ニ關スル登記ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ期間經過後ニ於テハ攻撃又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

前項ノ期間經過後ニ於テハ攻撃又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ控訴審ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第六條 裁判所特ニ必要アリト認ムルキハ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ提出スペキ期間ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ期間經過後ニ於テハ攻撃又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ控訴審ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第六條 裁判所特ニ必要アリト認ムルキハ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ提出スペキ期間ヲ定ムルコトヲ得ズ

前項ノ期間經過後ニ於テハ攻撃又ハ防禦ノ方法ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ控訴審ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第一 战時民事特別法
第一章 通則
司法大臣 岩村 通世

内閣總理大臣 東條 英機
司法大臣 岩村 通世

第一 战時民事特別法
第一 战時ニ於ケル民事ニ關スル特例
ハ本法ノ定ムル所ニ依ル

第二 战争ニ起因スル避クベカラザル障碍ニ因リ期間ヲ遵守スルコト能ハザル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ伸長ス但シ

他ノ法令ニ定アルモノニ付テハ其ノ定期ニ規定ニ依リテ伸長セラレタル期

間ハ障碍ノ止ミタル時ヨリ一週間ノ経過ニ依リテ満了ス

前項ノ規定ニ依リテ伸長セラレタル期

間ハ障碍ノ止ミタル時ヨリ一週間ノ經過ニ依リテ満了ス

前項ノ規定ニ依リテ伸長セラレタル期

間ハ障碍ノ止ミタル時ヨリ一週間ノ經過ニ依リテ満了ス

前項ノ規定ニ依リテ伸長セラレタル期

間ハ障碍ノ止ミタル時ヨリ一週間ノ經過ニ依リテ満了ス

第三條 裁判所ガ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ除クニ付本法施行後最初ニ登記ノ申

スベキ公告ハ官報ノミヲ以テ之ヲ爲スノ管轄ニ關スル規定ニ拘ラズ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ニ全部若ハ一部ヲ他ノ裁判所ニ移送シ又ハ自ラ裁判ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四條 裁判所構成法戰時特例第三條第一項ノ訴訟ノ請求ガ他ノ請求ト併セ一項ノ訴訟ノ請求ガ他ノ請求ト併セ一ノ訴ヲ以テ提起セラレタル場合ニ於テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ分離スルコトヲ要ス

第五條 裁判所構成法戰時特例第三條第一項ノ訴訟ノ請求ガ他ノ請求ト併セ一ノ訴ヲ以テ提起セラレタル場合ニ於テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ分離スルコトヲ要ス

第六條 裁判所特ニ必要アリト認ムルキハ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ提出スペキ期間ヲ定ムルコトヲ得ズ

第九條 裁判所相當ト認ムルトキハ證人
又ハ鑑定人ノ訊問ニ代ヘ書面ノ提出ヲ
爲サシムルコトヲ得

第十條 民事訴訟法第三百五十九條ノ規定ハ裁判所構成法戰時特例第三條第一項ノ判決ニハ之ヲ適用セズ

第十一條 債務者ガ戰争ノ影響ニ因リ債務ヲ履行スルコト困難ナル場合ニ於テ債務者ガ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者ノ經濟ニ甚シキ影響ヲ及ボサザルモノト認ムベキ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ依リ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメズシテ強制執行ノ一時ノ停止又ハ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命ズルコトヲ得

民事訴訟法第五百七十條ノ二第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 破産及和議

第十二條 破産ノ原因タル事實ガ戰争ノ影響ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ債務者ガ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者一般ノ利益ヲ甚シク害セズト認ムベキ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告前ニ限り債務者ノ申立てリ破産手續ヲ中止スルコトヲ得

民事訴訟法第五百七十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 強制和議ノ條件ガ各破産債權者ニ付平等ナラザルトキト雖モ裁判所ハ債權ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シハ債權ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シ

ガルモノト認ムルトキハ強制和議認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ和議法ニ依ル和議開始ノ

決定及和議認可ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四章 調停

第十四條 民事ニ關シ紛爭ヲ生ジタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區

裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ他ノ法律ニ定アルモノニ付テハ其ノ定ニ從フ

第十五條 裁判所其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス但シ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ之ヲ他ノ地方裁判所若ハ區裁判所ニ移送シ又ハ自ラ處理スルコトヲ妨げ

裁判所其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキト雖モ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコトヲ得

前二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第十六條 受訴裁判所適當ト認ムルトキハ事件ヲ調停ニ付シ自ラ調停ニ依リテ之ヲ處理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ調停主任タル判事ハ受訴裁判所之ヲ指定ス

戰時刑事特別法案

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十七年一月十八日

陸軍大臣	内閣總理大臣兼	東條	英機
司法大臣	岩村	通世	
海軍大臣	鳴田繁太郎		

戰時刑事特別法案

第一章 罪

第十七條 調停ハ特ニ必要アリト認ムルトキハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十八條 借地借家調停法第二條、第四條ノ二、第六條、第八條乃至第二十三條、第二十六條乃至第三十一條及第三十二條第一項、金錢債務臨時調停法第

五條乃至第十條並ニ人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ第十四條ノ調停ニ之ヲ準用ス

第十九條 第十六條及第十七條ノ規定ハ他ノ法律ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

金錢債務臨時調停法第七條乃至第十條ノ規定ハ借地借家調停法及商事調停法ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

人事調停法第六條及第十條ノ規定ハ借地借家調停法、小作調停法(農地調整法)ニ於テ準用スル場合ヲ含ム

商事調停法及金錢債務臨時調停法ニ依ル調停ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第五條及第十條ノ規定ハ本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用セズ又ハ人ノ現在セザル建造物、汽車、電車、自動車、艦船、航空機若ハ礮坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス但シ公共ノ危險ヲ生ゼザルトキハ之ヲ罰セズ

第一項及第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

テ其ノ豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十

年以下ノ懲役ニ處ス

第一項及第二項ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ前條

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ前條

以下ノ懲役ニ處ス

第三條 第一條第二項及前條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ質貸シ若ハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例

ニ同ジ

第四條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベキ状態アル場合ニ於テ火ヲ放チテ現ニ

條若ハ同條ノ例ニ依ル同法第百七十八
條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七十七
九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以上ノ有

期懲役ニ處シ同法第百七十七條若ハ同
條ノ例ニ依ル同法第百七八八條ノ罪又
ハ此等ニ關スル同法第百七十九條ノ罪
ヲ犯シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲
役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷害ニ致シタ
ル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲
役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス
刑法第百八十條ノ規定ハ第一項ノ罪ニ
付テハ之ヲ適用セズ

第五條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲
ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベ
キ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百三十
五條、第二百三十六條、第二百三十八條
若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ此等ニ關
スル同法第二百四十三條ノ罪ヲ犯シタ
ル者竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ無期又
ハ三年以上ノ懲役、強盜ヲ以テ論ズベ
キトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ
懲役ニ處ス

戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲ニ處ス
ノ危險其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベ
キ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百四十
一條ノ罪又ハ此等ニ關スル同法第百七
十九條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有

期懲役ニ處シ同法第百七十九條ノ罪
ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有

第六條 戰時ニ際シ燈火管制中又ハ敵襲
ノ危険其ノ他人心ニ動搖ヲ生ゼシムベ
キ狀態アル場合ニ於テ刑法第二百四十
一條ノ罪又ハ之ニ關スル同法第二百五
十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有
期懲役ニ處ス

第七條 戰時ニ際シ國政ヲ變亂スルコト
ヲ目的トシテ人ヲ殺シタル者ハ死刑又
ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備
又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有
期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シ又ハ幫
助シタル者ハ神教唆又ハ被幫助者其
ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ二年以
上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ煽動
シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第三項乃至前項ノ罪ヲ犯シタル者自首
シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ
無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八條 戰時ニ際シ防空ノ實施ニ從事ス
ル公務員ノ當該職務ヲ執行スルニ當リ
之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者
ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第九條 戰時ニ際シ刑法第百六條ノ罪ヲ
犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
ノ懲役ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ
勢ヲ助ケタル者ハ一年以上ノ有期懲
役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ三年以下ノ懲
役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項ノ強盜ヲ爲ス目的ヲ以テ其ノ豫
備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十
處ス

年以下ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲多衆
聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受
クルモ仍解散セザルトキハ首魁ハ十年
以下ノ懲役ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以

キ状態アル場合ニ於テ刑法第二百四十
一條ノ罪又ハ之ニ關スル同法第二百五
十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ
有期懲役ニ處ス

第十條 戰時ニ際シ公共ノ防空ノ爲ノ建
造物、工作物其ノ他ノ設備ヲ損壊シ又ハ
ヲ生ゼシタル者ハ死刑又ハ無期若ハ
三年以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ氣象ノ觀測ノ爲ノ建造物、
工作物其ノ他ノ設備ヲ損壊シ又ハ其ノ
他ノ方法ヲ以テ氣象ノ觀測ノ妨害ヲ生
ゼシタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十一條 戰時ニ際シ郵便又ハ電氣通信
ノ用ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ
設備ヲ損壊シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ
公共ノ通信ノ妨害ヲ生ゼシタル者ハ
無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十二條 戰時ニ際シ瓦斯又ハ電氣ノ用
ニ供スル建造物、工作物其ノ他ノ設備
ヲ損壊シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ瓦斯
又ハ電氣ノ公共ノ利用ノ妨害ヲ生ゼシ
タル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ
處ス

第十三條 戰時ニ際シ國防上重要ナル生
産事業ノ設備其ノ他當該生產ノ用ニ供
スル物ヲ損壊若ハ隱匿シ又ハ其ノ他ノ
方法ヲ以テ其ノ物ノ效用ヲ害シ當該事
業ノ遂行ノ妨害ヲ生ゼシタル者ハ無

期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十四條 戰時ニ際シ業務上不正ノ利益
ヲ得ル目的ヲ以テ生活必需品ノ買占又
ハ賣惜ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ

處ス

第十五條 戰時ニ際シ刑法第百四十六條前段ノ罪
ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年
以上ノ懲役ニ處ス

戰時ニ際シ刑法第百四十六條前段ノ罪
ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年
以上ノ懲役ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ
勢ヲ助ケタル者ハ一年以上ノ有期懲
役ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ三年以下ノ懲
役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ
懲役及罰金ヲ併科コトヲ得

第十六條 戰時ニ際シ刑法第百二十四條
ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ
有期懲役ニ處ス

第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ致シタ
ル者ハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲
役ニ處ス

處ス

第一項前段、第二項前段及前項ノ未遂
罪ハ之ヲ罰ス。

第二項前段ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ
豫備又ハ通謀ヲ爲シタル者ハ十年以下
ノ懲役ニ處ス

第二章 刑事手續

第十九條 戰時ニ於ケル刑事手續ニ關ス
ル特例ハ本章ノ定ムル所ニ依ル但シ第

二十條ノ規定ハ裁判所構成法戰時特例
第四條第一項ニ掲タル罪竝ニ刑法第七

十三條、第七十五條及第二編第二章ノ
罪ニ關スル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付
二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期
日ニ係ル召喚状ノ送達ヲ受ケタル日ヨ
リ十日ヲ経過シタルトキハ之ヲ爲スコ
トキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ
謄寫ヲ爲サントストキハ裁判長又ハ
豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁
判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ
於テ之ヲ爲スベシ

第二十二條 裁判書又ハ裁判ヲ記載シタ
ル調書ノ謄本又ハ抄本ハ機密ノ保持其
ノ他公益上ノ理由ニ依リ裁判所ニ於テ
之ヲ被告人其ノ他訴訟關係人ニ交付ス
ルコトヲ相當ナラズト認ムルトキハ之
ヲ交付セザルコトヲ得

第二十三條 豫審判事ハ商工會議所其ノ
他ノ團體ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ
上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シ
タルモノト看做ス

求ムルコトヲ得

裁判所ハ公判期日前前項ノ團體ニ對シ必
要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得
要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

刑事訴訟法第三百四十二條ノ規定ハ前
項ノ規定ニ依リ集取シタルモノニ付之
ヲ準用ス

第二十四條 刑事訴訟法第三百三十四條
ノ規定ハ第五條第一項竝ニ昭和五年法
律第九號第二條及第三條ノ竊盜ノ罪ニ

關スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ
第二十五條 地方裁判所ノ事件ト雖モ刑
事訴訟法第三百四十三條第一項ニ規定
スル制限ニ依ルコトヲ要セズ

第二十六條 有罪ノ言渡ヲ爲スニ當リ證
據ニ依リテ罪ト爲ルベキ事實ヲ認メタ
ル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スニハ
證據ノ標目及法令ヲ掲グルヲ以テ足ル

第二十七條 國防保安法第三十四條第二
項ノ規定ニ依リ上告裁判所原判決ヲ破
毀スル場合ニ於テ其ノ事件裁判所構成
法戰時特例第四條第一項第二號ニ掲グ
ル罪ニ關スルモノナルトキハ檢事ノ意
見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲ス
ベキ旨ヲ言渡スベシ

第二十八條 上告裁判所上告趣意書其ノ
他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ナキコト明
白ナリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽
キ辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ棄
却スルコトヲ得

第二十九條 上告裁判所上告趣意書其ノ
他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ナキコト明
白ナリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽
キ辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ棄
却スルコトヲ得

第三十條 裁判所構成法戰時特例第四
條第一項ニ掲タル罪ニ該ル事件（陪審
法第四條ニ規定スルモノヲ除ク）ハ之
ヲ陪審ノ評議ニ付セズ

第三十一條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規
定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適
用アルモノトス

第三十二條 第二十一條乃至第二十四
條、第二十六條及第三十一條ノ規定ハ軍
法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準用ス此ノ
場合ニ於テ刑事訴訟法第三百四十二條ト
タル第一審判決ニ對シ控訴院ニ上告ア
リタル場合ニ於テ其ノ罪ガ外國ト通謀
シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ
犯サレタルモノナルコトヲ疑フニ足ル
ベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルト
キハ控訴院ハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院
ニ移送スベシ此ノ場合ニ於テハ事件ハ
上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シ
タルモノト看做ス

第二十八條 上告裁判所訴訟記錄ノ送付
ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ上告申
立人及對手人ニ通知スベシ
上告申立人ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日
ヨリ三十日以内ニ上告趣意書ヲ上告裁
判所ニ差出スベシ
上告ノ對手人ハ第一項ノ通知ヲ受ケタ
ル日ヨリ三十日以内ニ附帶上告ヲ爲ス
コトヲ得
刑事訴訟法第四百二十二條、第四百二
十三條及第四百二十四條第一項ノ規定
ハ之ヲ適用セズ

第二十九條 上告裁判所上告趣意書其ノ
他ノ書類ニ依リ上告ノ理由ナキコト明
白ナリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽
キ辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ上告ヲ棄
却スルコトヲ得

第三十條 裁判所構成法戰時特例第四
條第一項ニ掲タル罪ニ該ル事件（陪審
法第四條ニ規定スルモノヲ除ク）ハ之
ヲ陪審ノ評議ニ付セズ

第三十一條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規
定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適
用アルモノトス

第三十二條 第二十一條乃至第二十四
條、第二十六條及第三十一條ノ規定ハ軍
法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準用ス此ノ
場合ニ於テ刑事訴訟法第三百四十二條ト
タル第一審判決ニ對シ控訴院ニ上告ア
リタル場合ニ於テ其ノ罪ガ外國ト通謀
シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ
犯サレタルモノナルコトヲ疑フニ足ル
ベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルト
キハ控訴院ハ決定ヲ以テ事件ヲ大審院
ニ移送スベシ此ノ場合ニ於テハ事件ハ
上告ヲ爲シタル時ヨリ大審院ニ繫屬シ
タルモノト看做ス

昭和十六年法律第九十八號ハ之ヲ廢止ス
第二十條及第二十四條乃至第三十條（第
二十四條及第二十六條ニ付テハ第三十二
條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ハ
本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テ
ハ之ヲ適用セズ
戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム
昭和十六年法律第九十八號ニ違反シタル
者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル
戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム
昭和十七年一月二十二日
内閣總理大臣兼
陸軍大臣
司法大臣
東條英機
岩村通世
海軍大臣
鷗田繁太郎
別紙ノ通修正ス

第三十二條ヲ削リ第三十一條ヲ第三十條ト
ス
第三十二條ヲ第三十一條トシ同條中「第
三十一條」ヲ「前條」ニ改ム
附則第三項中「第三十條」ヲ「第二十九條」
ニ、「第三十二條」ヲ「第三十一條」ニ改ム

○國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル
國務大臣（岩村通世君）先づ第一ニ只今
議題トナリマシタ民法中改正法律案ニ付キ
マシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス、本
案ハ私生子ノ名稱ヲ廢止スル共ニ、父又
ハ母ノ死亡後ニ於ケル裁判上ノ認知ノ道ヲ
開イテ、私生子ノ保護ヲ圖リ、且相續ニ關
スル胎兒ノ地位ヲ改善スル爲、民法及關係
法律ニ必要ナル改正ヲ加ヘムトスルモノデ
アリマス、御承知ノ如ク婚姻ニ依ラズシテ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

ノ取調、判決ノ方式及上告審ノ手續等ニ關スル臨時ノ特例ヲ設ケ、裁判所構成法戰時ヲ圖リ、以テ戰時下ニ於キマスル犯罪ノ豫防及鎮壓ニ萬遺憾ナカラムコトヲ期シタ次第デゴザイマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戰時刑事特別法案ニ付キマシテ質疑ノ通告ガゴザイマス、次田大三郎君

(次田大三郎君演壇ニ登ル)

○次田大三郎君 只今ノ司法大臣ノ御説明ニ依リマスルト、此ノ戰時刑事特別法案へ戰時下ノ國內治安ヲ維持スルガ爲ニ必要デアルトシテ提出セラレタト云フコトデアリマス、就キマシテハ、私ハ此ノ法案ニ關聯シテ一つノ簡単ナル質問ヲ致シタインデアリマス、ソレハ治安維持法ノ改正法律案ニ關スルモノデアリマス、御承知ノ如ク政府ハ昨年ノ通常議會、即チ第七十六回ノ議會ニ於テ、治安維持法改正法律案ヲ必ズ今期提出シナイ考テアルト云フ者モアリマス、此ノ治安維持法ノ改正案ノ提出ガアリマセヌ、加之、政府ハ今期議會ニハ之ヲ提出シナイ考テアルト云フ者モアリマス、此ノ治安維持法ノ改正案ノ提出ガアルカド

○國務大臣(岩村通世君) 只今ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ申上ダマス、此ノ前ノ通常議會ノ貴族院ニ於キマシテ、當時ノ司法大臣ガ治安維持法改正法律案提出ニ關スル言明ヲ致シタコトハ、速記録等ヲ通じマシテモ能ク承知致シテ居リマス、然ルニ今回ハ、戰時下ニ於ケル當議會ノ特殊事情ニ鑑ミマシテ、政府ニ於キマシテハ提出法律案ヲ出

來得ル限り限定ヲ致シマシテ、今次ノ戰爭ノ目的完遂ノ爲必要缺クコトノ出來ナイ直接關聯ノ事項ト認メラレマシタモノニ付テノミ、法律案ヲ提出スルコトニ致シマシタ次第デアリマス、左様ナ次第ゴザイマシテ、議會ニ於テハ治安維持法改正案ハ提出致サナイ方針デゴザイマス、併シ尙此ノ點附加ヘテ申上ガタイト存ジマスルガ、無論先ノ通常議會ニ至シテ、此ノ議會ニ如何ナル法律案ヲ提出スルカト云フコトハ、此ノ内閣デ勿論定ムベシマシタ場合ニ、政府ガ、是ハ政府ニ於テ考慮スルコトガ出來ナイノデアリマス、一體本議場若シクハ委員會等ニ於キマシテ、議員カラ希望意見ガ出たり、註文ガ出たりシマシタ場合ニ、政府ガ、是ハ政府ニ於テシタ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレハ謹難致シマシタ、併シナガラ私共十分了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、一體マシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタシテ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレマシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタラウト考ヘラレル神兵隊事件、又鈴木政友会總裁ヲ暗殺シヨウトシタ埼玉縣ノ挺身隊事件ト云フヤウナ事件が續々起リマシテ、人心ハ極度ニ動搖シテ居タ時ニアッタノデアリマス、斯ウ云フ社會情勢デアリマシタカラ、委員會デハ共產黨ノ取締ヲ強化スルコトハ、無論贊成デアルガ、同時ニ所謂右翼ノ「テロ」行爲ヲ鎮壓スルガ爲ニ適當ナル取締規定ヲ此ノ治安維持法中ニ加フベシト云フ主張ガ、委員會ニ於テ壓倒的デアッタノデアリマス、然ルニ何故デアリマスカ、政府當局ハ、斯クノ如キ取締法規ヲ設ケル必要ガナイ、詰リ普通ノ刑法ノ規定デ以テ十分取締レルト云フコトヲ力説シテ之ニ反対サレタノデアリマスルガ、結局委員會ヲ納得セシナモノデハナカッタノデアリマス、勿論只シテ検討致シテ居ルノデアリマス、先程モ御話ガゴザイマシタガ、此ノ第七條ノ問題等モ、兎角此ノ國政ヲ變亂スルコトヲトガ必要ナコトナノデアリマスルカラ、此ノ際政府ハ、果シテ今期議會ニ治安維持法ノ改正法律案ヲ提出セラル、ノデアルカドウカ、若シ提出セラレナノラバ、如何ナル理由ニ依シテ提出セラレナノカト云

(國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル)

○國務大臣(岩村通世君) 只今ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ申上ダマス、此ノ前ノ通常議會ノ貴族院ニ付託セラレマスルト、色對シテ御答ヲ申上ダマス、此ノ前ノ通常議會ノ貴族院ニ付託セラレマス、然ルニ今回ハ、戰時下ニ於ケル當議會ノ特殊事情ニ鑑ミマシテ、政府ニ於キマシテハ十分研究ハ致ス積リゴザイマス、是ダケノコトヲ御答ヘ申上ダマス

(次田大三郎君演壇ニ登ル)

○次田大三郎君 只今ノ司法大臣ノ御答辨ハ謹難致シマシタ、併シナガラ私共十分了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、一體本議場若シクハ委員會等ニ於キマシテ、議員カラ希望意見ガ出たり、註文ガ出たりシマシタ場合ニ、政府ガ、是ハ政府ニ於テシタ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレマシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタシテ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレマシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタラウト考ヘラレル神兵隊事件、又鈴木政友会總裁ヲ暗殺シヨウトシタ埼玉縣ノ挺身隊事件ト云フヤウナ事件が續々起リマシテ、人心ハ極度ニ動搖シテ居タ時ニアッタノデアリマス、斯ウ云フ社會情勢デアリマシタカラ、委員會デハ共產黨ノ取締ヲ強化スルコトハ、無論贊成デアルガ、同時ニ所謂右翼ノ「テロ」行爲ヲ鎮壓スルガ爲ニ適當ナル取締規定ヲ此ノ治安維持法中ニ加フベシト云フ主張ガ、委員會ニ於テ壓倒的デアッタノデアリマス、然ルニ何故デアリマスカ、政府當局ハ、斯クノ如キ取締法規ヲ設ケル必要ガナイ、詰リ普通ノ刑法ノ規定デ以テ十分取締レルト云フコトヲ力説シテ之ニ反対サレタノデアリマスルガ、結局委員會ヲ納得セシナモノデハナカッタノデアリマス、勿論只シテ検討致シテ居ルノデアリマス、先程モ御話ガゴザイマシタガ、此ノ第七條ノ問題等モ、兎角此ノ國政ヲ變亂スルコトヲトガ必要ナコトナノデアリマスルカラ、此ノ際政府ハ、果シテ今期議會ニ於キマシタガ、此ノ前ノ際議會ニ付託セラレナノラバ、如何ナル理由ニ依シテ提出セラレナノカト云

（國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル）

○國務大臣(岩村通世君) 只今ノ御質疑ニ對シテ御答ヲ申上ダマス、此ノ前ノ通常議會ノ貴族院ニ付託セラレマス、然ルニ今回ハ、戰時下ニ於ケル當議會ノ特殊事情ニ鑑ミマシテ、政府ニ於キマシテハ十分研究ハ致ス積リゴザイマス、是ダケノコトヲ御答ヘ申上ダマス

(次田大三郎君演壇ニ登ル)

○次田大三郎君 只今ノ司法大臣ノ御答辨ハ謹難致シマシタ、併シナガラ私共十分了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、一體本議場若シクハ委員會等ニ於キマシテ、議員カラ希望意見ガ出たり、註文ガ出たりシマシタ場合ニ、政府ガ、是ハ政府ニ於テシタ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレマシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタシテ五・一五事件、續イテ事前ニ檢舉ハサレマシタガ、若シ實行サレタラバ大變デアッタラウト考ヘラレル神兵隊事件、又鈴木政友会總裁ヲ暗殺シヨウトシタ埼玉縣ノ挺身隊事件ト云フヤウナ事件が續々起リマシテ、人心ハ極度ニ動搖シテ居タ時ニアッタノデアリマス、斯ウ云フ社會情勢デアリマシタカラ、委員會デハ共產黨ノ取締ヲ強化スルコトハ、無論贊成デアルガ、同時ニ所謂右翼ノ「テロ」行爲ヲ鎮壓スルガ爲ニ適當ナル取締規定ヲ此ノ治安維持法中ニ加フベシト云フ主張ガ、委員會ニ於テ壓倒的デアッタノデアリマス、然ルニ何故デアリマスカ、政府當局ハ、斯クノ如キ取締法規ヲ設ケル必要ガナイ、詰リ普通ノ刑法ノ規定デ以テ十分取締レルト云フコトヲ力説シテ之ニ反対サレタノデアリマスルガ、結局委員會ヲ納得セシナモノデハナカッタノデアリマス、勿論只シテ検討致シテ居ルノデアリマス、先程モ御話ガゴザイマシタガ、此ノ第七條ノ問題等モ、兎角此ノ國政ヲ變亂スルコトヲトガ必要ナコトナノデアリマスルカラ、此ノ際政府ハ、果シテ今期議會ニ於キマシタガ、此ノ前ノ際議會ニ付託セラレナノラバ、如何ナル理由ニ依シテ提出セラレナノカト云

ハ禁錮ニ處ス」ト云フ修正ヲ加ヘタノニアリマス、斯ウ云フ規定ヲ政府ノ原案ニ加ヘルコト致シマシテ、本會議ニ報告シ、本會議ニ於キマシテ委員會報告通り大多數ヲ以テ修正案ガ可決サレタノニアリマス、斯クノ如クシテ結局兩院協議會ヲ開イタノデアリマスルガ、其ノウチニ會期ガ盡キマシテ、治安維持法案ハ其ノ際ハ成立致サナカツタノニアリマス、併シナガラ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化デアリマスルガ、其ノウチニ會期ガ盡キマシテ、治安維持法案ハ其ノ際ハ成立致サナカツタノニアリマス、併シナガラ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化セザルベカラズト云フ貴族院ノ主張ハ、其ノ際院議ヲ以テハッキリ決定表示サレタノニアリマス、其ノ後約十年、貴族院ガ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化セザルベカラズト主張スルコトヲ已ムヲ得ザラシアルニ拘ラズ、昨年第七十六議會ニ政府ガメタ世ノ中ノ情勢ハ毫モ改善セラレナイデ、寧ロ益其ノ必要ヲ痛感セシムモノガアルニ拘ラズ、昨年第七十六議會ニ政府ガ治安維持法改正法律案ヲ提出シマシタ際ハ、右貴族院ノ院議ヲ全然無視シテ、第六十五議會提出案ト略同一ノモノヲ提出サレタノデアリマス、茲ニ於テ委員會ニ於テ私共ハ、政府ガ貴族院ノ院議ヲ無視シタコトヲ咎メシテ、昭和九年ノ時ト同様、所謂右翼運動取締ヲ強化スルノ法文ヲ加フル必要ヲ力説致シタノニアリマス、政府ハ當初ハ、斯ノ如キ取締規範ヲ設ケズトモ所謂右翼運動取締ハ出來ル、斯カル規定ヲ設クル必正案、即チ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スル目的ヲ以テスル結社ヲ禁ジ、又其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行為ヲ禁ズル趣旨ノ規定ヲ加フルノ案ヲ提出シ及シ、政府ハ遂ニ貴族院ノ主張ニ屈シタ

ノニアリマス、即チ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化スルノ必要ハ之ヲ認メル、唯修正條文ノ文句ガ見付カラナイカラ、藉スニ時日ヲ以テ十分デナイ、又之ニ代ハルベキ適當ノ文句テ貴ヒタイ、少シ待テ貴ヒタイ、能ク調査シテ來議會、來議會ト云フノハ詰リ此ノ今期議會ノコトヲ指スモノト了解致シマス、來議會ニハ必ラズ治安維持法改正案ヲ提出スルト云フ意味ノ言明ヲサレタノニアリマス、念ノ爲政府ノ言明ヲ一句々々其ノ通りニ繰返シテ見マス、「國務大臣柳川平助君、修正案ノ要點ハ憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞セムトスル者ヲ取締ラムトスルニアリマシテ、御趣旨ノアル所ニ付キマシテハ、十分諒承致シマスノデアリマスガ、之ヲ法文ニ現シマスニ付キマシテハ、慎重研究ノ上更ニ周到ナル考究ヲ手シマスノデ、藉スニ時日ヲ以テセラレタイト存ズル次第デアリマス、此ノ趣旨ヲ以チマシテ、慎重研究ノ上近キ將來ニ於テ、立法ノ手續ヲ執ルコトニ致シタイト存ジマス」此ノ近キ將來ニ於テデアリマス、茲ニ於テ委員會ニ於テ私共ハ、ト云ノガ昧暖デアルト云フノデ、委員中ノ舟橋子爵ガ念ヲ押シテ居ラレマス、「現下ノ社會ニ情勢ハ、只今大臣ガ仰セラレマシタ御言葉ノ如キ、藉スニ多大ノ日子ヲ以テスルコトヲ許サナイ事情ガゴザイマス、只今大臣ノ御言明中、近キ將來ニ云々ト云フ御言葉ノ意味ニ付テ、此ノ際念ノ爲ニ承テ動取締ヲ強化スルノ法文ヲ加フル必要ヲ力説致シタノニアリマス、政府ハ當初ハ、斯ノ如キ取締規範ヲ設ケズトモ所謂右翼運動取締ハ出來ル、斯カル規定ヲ設クル必正案、即チ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スル目的ヲ以テスル結社ヲ禁ジ、又其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行為ヲ禁ズル趣旨ノ規定ヲ加フルノ案ヲ提出シ及シ、政府ハ遂ニ貴族院ノ主張ニ屈シタ

ノニアリマス、即チ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化スルノ必要ハ之ヲ認メル、唯修正條文ノ文句ガ見付カラナイカラ、藉スニ時日ヲ以テ十分デナイ、又之ニ代ハルベキ適當ノ文句テ貴ヒタイ、少シ待テ貴ヒタイ、能ク調査シテ來議會、來議會ト云フノハ詰リ此ノ今期議會ノコトヲ指スモノト了解致シマス、來議會ニハ必ラズ治安維持法改正案ヲ提出スルト云フ意味ノ言明ヲサレタノニアリマス、念ノ爲政府ノ言明ヲ一句々々其ノ通りニ繰返シテ見マス、「國務大臣柳川平助君、修正案ノ要點ハ憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞セムトスル者ヲ取締ラムトスルニアリマシテ、御趣旨ノアル所ニ付キマシテハ、十分諒承致シマスノデアリマスガ、之ヲ法文ニ現シマスニ付キマシテハ、慎重研究ノ上更ニ周到ナル考究ヲ手シマスノデ、藉スニ時日ヲ以テセラレタイト存ズル次第デアリマス、此ノ趣旨ヲ以チマシテ、慎重研究ノ上近キ將來ニ於テ、立法ノ手續ヲ執ルコトニ致シタイト存ジマス」此ノ近キ將來ニ於テデアリマス、茲ニ於テ委員會ニ於テ私共ハ、ト云ノガ昧暖デアルト云フノデ、委員中ノ舟橋子爵ガ念ヲ押シテ居ラレマス、「現下ノ社會ニ情勢ハ、只今大臣ガ仰セラレマシタ御言葉ノ如キ、藉スニ多大ノ日子ヲ以テスルコトヲ許サナイ事情ガゴザイマス、只今大臣ノ御言明中、近キ將來ニ云々ト云フ御言葉ノ意味ニ付テ、此ノ際念ノ爲ニ承テ動取締ヲ強化スルノ法文ヲ加フル必要ヲ力説致シタノニアリマス、政府ハ當初ハ、斯ノ如キ取締規範ヲ設ケズトモ所謂右翼運動取締ハ出來ル、斯カル規定ヲ設クル必正案、即チ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スル目的ヲ以テスル結社ヲ禁ジ、又其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行為ヲ禁ズル趣旨ノ規定ヲ加フルノ案ヲ提出シ及シ、政府ハ遂ニ貴族院ノ主張ニ屈シタ

ノニアリマス、即チ所謂右翼運動ノ取締ヲ強化スルノ必要ハ之ヲ認メル、唯修正條文ノ文句ガ見付カラナイカラ、藉スニ時日ヲ以テ十分デナイ、又之ニ代ハルベキ適當ノ文句テ貴ヒタイ、少シ待テ貴ヒタイ、能ク調査シテ來議會、來議會ト云フノハ詰リ此ノ今期議會ノコトヲ指スモノト了解致シマス、來議會ニハ必ラズ治安維持法改正案ヲ提出スルト云フ意味ノ言明ヲサレタノニアリマス、念ノ爲政府ノ言明ヲ一句々々其ノ通りニ繰返シテ見マス、「國務大臣柳川平助君、修正案ノ要點ハ憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞セムトスル者ヲ取締ラムトスルニアリマシテ、御趣旨ノアル所ニ付キマシテハ、十分諒承致シマスノデアリマスガ、之ヲ法文ニ現シマスニ付キマシテハ、慎重研究ノ上更ニ周到ナル考究ヲ手シマスノデ、藉スニ時日ヲ以テセラレタイト存ズル次第デアリマス、此ノ趣旨ヲ以チマシテ、慎重研究ノ上近キ將來ニ於テ、立法ノ手續ヲ執ルコトニ致シタイト存ジマス」此ノ近キ將來ニ於テデアリマス、茲ニ於テ委員會ニ於テ私共ハ、ト云ノガ昧暖デアルト云フノデ、委員中ノ舟橋子爵ガ念ヲ押シテ居ラレマス、「現下ノ社會ニ情勢ハ、只今大臣ガ仰セラレマシタ御言葉ノ如キ、藉スニ多大ノ日子ヲ以テスルコトヲ許サナイ事情ガゴザイマス、只今大臣ノ御言明中、近キ將來ニ云々ト云フ御言葉ノ意味ニ付テ、此ノ際念ノ爲ニ承テ動取締ヲ強化スルノ法文ヲ加フル必要ヲ力説致シタノニアリマス、政府ハ當初ハ、斯ノ如キ取締規範ヲ設ケズトモ所謂右翼運動取締ハ出來ル、斯カル規定ヲ設クル必正案、即チ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スル目的ヲ以テスル結社ヲ禁ジ、又其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行為ヲ禁ズル趣旨ノ規定ヲ加フルノ案ヲ提出シ及シ、政府ハ遂ニ貴族院ノ主張ニ屈シタ

ダ、戰時下デ無クナッタノダト云フコトデア
リマスルナラバ、治安維持法改正ハ戰時法
デナイ、戰爭ニ關係ガナ、故ニ提出ナヌ
モ宜シト云フ議論ガ成立ツカモ知レマ
セス、併シ私共が昨年右翼運動取締ヲ強化
スルノ必要ヲ認メザルヲ得ナカッタ其ノ社
會情勢ヘ、今日ニ於テモ尙引續キ存續シテ居
ルト考ヘルノデアリマス、否其ノ必要ハ、戰
時下舉國一致ヲ絶対ニ必要トスル今日、及
ビ今日以後ニ於テモ益其ノ切實ナルモノガ
アルト信ズルノデアリマスルガ、政府ノ御
所見ハ果シテ如何デアリマスルカ、是ガ私
ノ質問ノ第一點デアリマス、次ニ司法大臣
ハ、只今日程ニ上ツテ居リマス戰時刑事特
別法案ノ第七條ニ戰時ニ於テ國政ヲ變亂ス
ルコトヲ目的トシデ人ヲ殺ス者ノ刑ヲ重ク
スル規定ヲ設ケタ、是テ以テ右翼運動左翼
ノ「テロ」行爲ヲ取締ルノニ間ニ合フカラ、
貴族院ノ主張ハ其處テ取入レタノダ、ソレ
以上治安維持法改正ノ必要ハナイト云フガ
如キ御説明デアッタト拜承致シマシタ、此ノ
第七條ノ條文ハ、之ヲ貴族院ガ嘗テ主張致
シマシタ治安維持法改正案ト比較シテ見
マスルト、其ノ取締ノ範圍ガ非常ニ違ツテ
居ルノデアリマス、此ノ第七條ハ、國政ヲ
變亂スル目的ヲ以て人ヲ殺ス場合ダケニ關
スルモノデアリマス、即チ第七條ハ昨年約束セ
修正ハ、憲法上ノ統治組織ノ機能ヲ不法ニ
變壞セムトスル一切ノ行爲ヲ禁ゼムトスル
モノデアリマス、即チ第七條ハ昨年約束セ
ラレマシタモノヨリモズット寛大ナ取締規
定ニ過ギナインデアリマス、治安維持法ノ
改正案ハ出サナイガ戰時刑直特別法第七條
ノ規定ヲ設ケタカラ、ソレデ我慢シロト言
フノハ、例ヘバ百圓ノ金ヲ借リタ者ガ、期

限ガ來テ十圓持ツテ行ツテ十圓拂フ、百圓借
リタケレドモ、モウアトノ九十圓ハ拂ハス
デモ宜シト云フ議論ガ成立ツカモ知レマ
セス、併シ私共が昨年右翼運動取締ヲ強化
スルノ必要ヲ認メザルヲ得ナカッタ其ノ社
會情勢ヘ、今日ニ於テモ尙引續キ存續シテ居
ルト考ヘルノデアリマス、否其ノ必要ハ、戰
時下舉國一致ヲ絶対ニ必要トスル今日、及
ビ今日以後ニ於テモ益其ノ切實ナルモノガ
アルト信ズルノデアリマスルガ、政府ノ御
所見ハ果シテ如何デアリマスルカ、是ガ私
ノ質問ノ第一點デアリマス、次ニ司法大臣
ハ、只今日程ニ上ツテ居リマス戰時刑事特
別法案ノ第七條ニ戰時ニ於テ國政ヲ變亂ス
ルコトヲ目的トシデ人ヲ殺ス者ノ刑ヲ重ク
スル規定ヲ設ケタ、是テ以テ右翼運動左翼
ノ「テロ」行爲ヲ取締ルノニ間ニ合フカラ、
貴族院ノ主張ハ其處テ取入レタノダ、ソレ
以上治安維持法改正ノ必要ハナイト云フガ
如キ御説明デアッタト拜承致シマシタ、此ノ
第七條ノ條文ハ、之ヲ貴族院ガ嘗テ主張致
シマシタ治安維持法改正案ト比較シテ見
マスルト、其ノ取締ノ範圍ガ非常ニ違ツテ
居ルノデアリマス、此ノ第七條ハ、國政ヲ
變亂スル目的ヲ以て人ヲ殺ス場合ダケニ關
スルモノデアリマス、即チ第七條ハ昨年約束セ
修正ハ、憲法上ノ統治組織ノ機能ヲ不法ニ
變壞セムトスル一切ノ行爲ヲ禁ゼムトスル
モノデアリマス、即チ第七條ハ昨年約束セ
ラレマシタモノヨリモズット寛大ナ取締規
定ニ過ギナインデアリマス、治安維持法ノ
改正案ハ出サナイガ戰時刑直特別法第七條
ノ規定ヲ設ケタカラ、ソレデ我慢シロト言
フノハ、例ヘバ百圓ノ金ヲ借リタ者ガ、期

ト云フノト同ジコトデアリマス、ドンナオ
レデハ困ルト言ハザルヲ得ナイグラウト思
ヒマス、若シ是ガ訴訟沙汰ニナリマシタナ
ラバ、裁判沙汰ニナリマシタナラバ、日本
國中何處ノ裁判所へ行ツテモ債務者ノ敗訴
ニナルコトハ明白デアリマス、然ルニ其ノ
全國ノ裁判所ノ總元締デアル所ノ司法大臣
ガ、右ノ債務者ガ言フヤウナ、百圓ノ金ヲ
借リタ者ガ、拾圓拂ッテ是デ我慢シロト言
シナイモノデアリマセウカ、是ガ私ノ質問
ノ第二點デアリマス、ドウカ御答辯ヲ煩シ
タイト思ヒマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 岩村司法大臣
(國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル)
○國務大臣(岩村通世君) 只今重ネテ御質
問ガゴザイマシタカラ、要點ダケ御答ヲ申
上げタイト思ヒマス、治安維持法改正法律案
ヲ提出スルカ、シナイカト云フ點デアリマ
ス、是ハ前司法大臣ハ如何ナル考ヲ持ツテ
居リマセヌ、是ダケ申上ゲテ置キタイト
思ヒマス、唯御話ノゴザイマンタ右翼、ト
云フコトガ正確デアルカ、ドウカ分リマセ
ガ、中ニハ革新ヲ名トシテ所謂左翼ノ運動
ヲシテ居ルモノモアルト色々ノ批評ヲ聞キ
マスガ、マア左様ナ治安維持法ニ觸レル
モノハ別ト致シマシテ、然ラザル方面ニ
於テ、或ハ憲法ノ大綱ヲ破壞スルトカ、其
ノ他ノ國體ニ關係ナキ部分デアリマス、憲
法ノ大綱ヲ破壞スルト云フヤウナコトヲ目
的トシテ行動ニ出ヅル、マア甚ダシイモノハ
内亂罪ノ如キガ其ノ一ツデアラウト思ヒマ
ス、今日ノ解釋デハ、朝憲ヲ紊亂スル目的
ヲ以テ暴動ヲ爲シタルモノハ内亂罪ニナツ
テ居ル、左様ナ色々他ノ法律ニ觸レル犯罪
刑法犯等ニ觸レル犯罪行爲モゴザイマス、併
シ左様ナ行爲ヲ治安維持法中ニ設ケルト云
ノデアリマスガ、國政變亂ニ關聯スル案ヲ
考ヘマシタガ、ナカニ字句ガウマク参リ
マセヌ、私共不敏デ適當ナ文字ヲ發見シ得
ナカッタノデアルカモ知レマセヌ、非常ニ
其ノ規定ノ仕方ニ依ルト非常ニ廣クナツテ
シマフノデ、餘リ廣クナリマスト、他ノ規
定ヲ皆包含スルヤウナ規定ニナツテシマッテ

ハ幾度カ改正ヲセラレマシタガ、今日ニ至
リマシテハ數回ノ改正ニ依リマシテ、治安
維持法ノ規律スルモノハ國體ニ關スルモノ
デアル、私有財產制度ニ關スルモノハ、國
際共産黨ノ主義トルモノガ我國ニ働く
トキニハ必ず國體變革ヲ目的トシテ居ル、
斯ウ云フコトデ治安維持法ハ制定セラレ
居リ、其ノ後ノ改正モ又此ノ線ニ沿ウテ改
正セラレタモノト私ハ考ヘテ居リマス、前
司法大臣ハ如何ナル考デアッタカ存ジマセ
ヌガ、治安維持法ヲ改正致シマシテ、國體
ノ變革、私有財產制度ノ否認、此ノ以外ノ
思想行動ヲ取締ル趣旨ノ規定ヲ、治安維持
法改正ノ法案トシテ提出スル考ハ私ハ持ツ
テ居リマセヌ、是ダケ申上ゲテ置キタイト
思ヒマス、唯御話ノゴザイマンタ右翼、ト
云フコトガ正確デアルカ、ドウカ分リマセ
ガ、中ニハ革新ヲ名トシテ所謂左翼ノ運動
ヲシテ居ルモノモアルト色々ノ批評ヲ聞キ
マスガ、マア左様ナ治安維持法ニ觸レル
モノハ別ト致シマシテ、然ラザル方面ニ
於テ、或ハ憲法ノ大綱ヲ破壞スルトカ、其
ノ他ノ國體ニ關係ナキ部分デアリマス、憲
法ノ大綱ヲ破壞スルト云フヤウナコトヲ目
的トシテ行動ニ出ヅル、マア甚ダシイモノハ
内亂罪ノ如キガ其ノ一ツデアラウト思ヒマ
ス、今日ノ解釋デハ、朝憲ヲ紊亂スル目的
ヲ以テ暴動ヲ爲シタルモノハ内亂罪ニナツ
テ居ル、左様ナ色々他ノ法律ニ觸レル犯罪
刑法犯等ニ觸レル犯罪行爲モゴザイマス、併
シ左様ナ行爲ヲ治安維持法中ニ設ケルト云
ノデアリマスガ、國政變亂ニ關聯スル案ヲ
考ヘマシタガ、ナカニ字句ガウマク参リ
マセヌ、私共不敏デ適當ナ文字ヲ發見シ得
ナカッタノデアルカモ知レマセヌ、非常ニ
其ノ規定ノ仕方ニ依ルト非常ニ廣クナツテ
シマフノデ、餘リ廣クナリマスト、他ノ規
定ヲ皆包含スルヤウナ規定ニナツテシマッテ

誠ニ面白クナ、要スルニ過ギタル點モナク及バザル點モナ、丁度好イ所ヲ如何ニシテ規定スルカト云フコトニ苦心ヲ致シマシタコトモザイマス、ソレデ第七條ガアルカラ我慢シロト云フコトハ、決シテ私ハ申上ゲマセス、唯前ノ七十六議會ニ前司法大臣ガ言明致シマシタモノノ中、出來ルダケノコトハ考ヘテ、考慮致シタ結果、サウ云フ思想ガ第七條ニモ入シテ居ルト云フコトダケヲ申上ゲマシタ譯デアリマス、之ヲ以テ決シテ御満足ヲシテ戴キタイト云フ考ハ持シテ居ラナイト云フコトダケ申上ゲテ置キタイト思フ、併シ前ノ内閣ノユトデハアリマスルケレドモ、私共司法部ト致シマシテハ、前任者ノ思想ヲ承ケ繼イデ司法部ノ仕事ヲ致シテ居リマス、出來ルダケ、前司法大臣ノ言明致シタコトニハ十分尊重ヲ拂ツテ研究ヲ致シマシタ、前ノ御答ト重複スルヤウデゴザイマスガ是ダケ申上ゲテ置キマス。

〔次田大三郎君演壇ニ登ル〕
○次田大三郎君 只今司法大臣ガ述ベラレマシタ治安維持法ハ國體ニ關スル罪、ソレカラ私有財産制度ヲ犯サムトスル罪、其ノ線ニ限テ居ルノデアツテ、ソレ以外ノモノハ治安維持法ノ中ニ規定シナイガ宜シイト云フ意味ノコトハ、是ハ私共ガ昭和九年以來幾度トナク承ッタ議論デアリマス、併シ昭和九年ニ於テハ、必ズシモ國體ニ關スル罪、私有財産ニ關スル罪ノミニ局限シナケレバナラスト云フ理由ハナイデヤナ

イカ、憲法ノ定メタル統治組織ノ機能ヲ變ノ治安維持法中ニ規定シテモ差支ナイデヤリマス、昨年ノ委員會デモ、政府當局ハ頻々言ハレタノデアリマスガ、結局議論ヲシタ結果、マア其ノ當時ノ司法大臣ハ、貴族院ノ趣旨ハ之ヲ諒承スル、今度ノ議會、來議會ニハ治安維持法ノ改正案ヲ提出シマシテ居ルト云フ御話デアリマス、處ガ又人ガ迭シテ新ラシイ司法大臣ガ出來マスト、又同ジ議論ニナツテ、我々ハ又同ジ議論ヲシナケレバナラストコトニナル、併シ私共ハ必ズシモ其ノ治安維持法ノ中ニ規定シマシテ、私ノ質問ヲ終リマス
○子爵秋田重季君 只今上程セラレマシタ民法中改正法律案外三件ハ、戰時ニ於ケル領事官ノ裁判ノ特例ニ關スル法律案ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

持法以外デモ、所謂右翼運動ノ取締ヲ強化スル規定ヲ設ケル必要ヲ痛感スルモノデアリマス、名前ハ治安維持法デヤナクテモ、無論差支外ニ單行法ヲ御出シニナツテモ、無論差支ナイノデアリマス、必ズ治安維持法ノ中ニ、シマセヌ、唯問題ハ、今日ノ社會情勢ヲ考外ニ單行法ヲ御出シニナツテモ、無論差支ナシ」と呼フ者アリ」
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス
〔異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第四十五、獸醫師法第一條ノ臨時特別ニ關スル法律案、日程第四十七、明治四十五年法律第二十一號中改正法十一號中改正法律案、政府提出第一讀會、附則本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス 昭和十七年一月十八日
内閣總理大臣 東條 英機 農林大臣兼 拓務大臣 井野 碩哉
明治四十五年法律第二十一號中改正法律案
明治四十五年法律第二十一號中改正法
正ス

同法ニ左ノ題名ヲ附ス

臘虎臘臘獵獲取締法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ臘虎又ハ臘臘獵獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條及第三條 削除

第四條中「本法」ヲ「第一條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限」ニ改ム

第五條第一項中「第一條ノ規定ニ違反シ又ハ私ニ第二條ノ獵獲ヲ爲シタル者」ヲ「第一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第六條中「前條第一項」ヲ「前條」ニ、「本法ニ違反シテ獵獲輸入又ハ移致シタル」ヲ「第一條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シテ獵獲シタル」ニ改ム

第八條ヲ削ル
附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前從前ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
參照

明治四十五年法律第二十一號ハ臘虎臘

臘獵獲禁止ニ關スル法律ナリ

〔國務大臣井野頼哉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（井野頼哉君）只今議題トナリ
マシタ獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案外一件ニ付テ提案理由ヲ御説明申上

ガマス、先ツ獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ申上ゲマスレバ、本法律案ハ、昨年十月二十二日ヲ以テ本條約ハ失效致シ次第アリマス、仍テ本條約ノ規定ニ基

百二十四號ニ依リテ大學、專門學校等ノ卒業期ガ繰上ゲラレ、之ガ卒業者ヲシテ當時ヨリモ相當期間早ク國家ノ要務ニ從事セシメ

ルコトト相成リマシタ結果、右修業年限ノ臨時短縮ニ伴ヒマシテ、獸醫學ヲ專攻スル

是等専門學校ノ卒業者ノ中ニハ未成年者ガ相當數アルノデアリマスルガ、未成年者ハ獸醫師法第二條ノ規定ニ依リマシテ獸醫師

ノ免許ヲ與ヘラレザルコトトナッテ居リマスノデ、臨時の措置ト致シマシテ當分ノ内

右ノ規定ニ拘ラズ是等ノ者ニモ獸醫師ノ免

許ヲ與ヘ得ルコトトシ、人的資源ノ剩ス所

ナキ活用ニ依リ、戰時下畜產資源確保ノ萬

全ヲ期セムトスルモノデアリマス、次ニ明

治四十五年法律第二十一號中改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ致シマス、此ノ法案ハ

臘虎臘臘獵獲取締法アリマシテ、臘虎

臘臘獵獲取締法ノ保護條約ヲ締結シ、其ノ保護ニ努

力シテ参りマシタガ、近年臘虎臘臘獵獲取締法スルニ伴ヒマシテ、我ガ國近海ニ洄游スル獸類ガ激増シ、我ガ漁業ニ及シマスル損害

カ相當著シキモノアルニ至リマシタノ

ノト認メ、之ガ廢棄ノ通告ヲ致シマシテ、

マシタ獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル

法律案外一件ニ付テ提案理由ヲ御説明申上

案ハ、昨年十月二十二日ヲ以テ本條約ハ失效致シ

マシタノヲ、本法律案ニ依リマシテ之ヲ改

メ、今後ハ政府ニ於テ必要ニ應ジ之ガ禁

又ハ制限ノ措置ヲ執リ得ルコトト致シマシテ、海洋獸皮資源ノ統制アル利用ヲ圖ルニ

遺憾ナキヲ期シタイト存ズルノデアリマス、何卒御審議ノ上速力ニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○副議長（侯爵佐木行忠君）御質疑ガナケレバ、兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

（近藤書記官朗讀）
獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案外一件特別委員

侯爵四條 隆徳君 子爵牧野 康熙君 家治君

子爵植村 宇佐美勝夫君

男爵三須 精一君 竹内 可吉君

下出 民義君 塩田 團平君

佐々木長治君

○副議長（侯爵佐木行忠君）御質疑ガナ

（近藤書記官朗讀）
獸醫師法第二條ノ臨時特例ニ關スル法律案外一件特別委員

侯爵四條 隆徳君 子爵植村 家治君

子爵牧野 康熙君 宇佐美勝夫君

男爵三須 精一君 竹内 可吉君

下出 民義君 塩田 團平君

佐々木長治君

クニ乘組ム命令ヲ以テ定ムル船員（以下小形船舶乗組員ト稱ス）ハ小形船舶

乘組員手帳ヲ受有スルコトヲ要ス

一 總噸數五噸以上二十噸未滿ノ船舶

二 總噸數五噸以上ノ端舟及櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

三 平水區域ヲ航行スル總噸數二十噸以上ノ船舶

本法ニ定ムルモノヲ除クノ外小形船舶

乗組員手帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 小形船舶乗組員ハ其ノ雇傭契約ノ成立、終了、更新又ハ變更アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ小形船舶乗組員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ雇

傭契約ニ依ラズシテ乘組ム小形船舶乗組員ニ之ヲ準用ス

第三條 小形船舶乗組員、小形船舶乗組員タラントスル者、船舶所有者又ハ船

長ハ小形船舶乗組員手帳ニ關シ必要アルトキハ小形船舶乗組員又ハ小形船舶

乗組員タラントスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ

對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第四條 管海官廳必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ小形船舶乗組員手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第五條 本法及本法ニ基キテ發スル命令

中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共、有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合トキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ管海官廳ノ行フベキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズル者ヲシテ之ヲ行ハシムコトヲ得

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐欺其ノ他ノ不正行為ヲ以テ小形船舶乗組員手帳ノ交付ヲ受ケタル者

二 第二條ノ規定ニ違反シ證明ヲ受ケザル者

三 詐欺其ノ他ノ不正行為ヲ以テ第二條ノ規定ニ依ル證明ヲ受ケタル者

第八條 第四條ノ規定ニ違反シ出頭ニ應ゼズ又ハ報告ヲ怠リ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行為ヲ爲シタル者ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十條 第八條ノ罰則ハ船舶所有者ガ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者

ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ハ其ノ北海道、府縣、市町村ニ屬スルノ他之ニ準ズベキモノノ所有ニ屬スル船舶ニ乘組ム小形船舶乗組員ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

本法及本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモニハ之ヲ適用セズ

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣寺島健君演壇ニ登ル)

○國務大臣(寺島健君) 只今議題トナリマシタ小形船舶乗組員手帳法案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、戰時下ニ

於ケル海上物資輸送ノ完遂ヲ圖ルニハ船舶乗組要員ノ確保竝ニ整備ガ缺クベカラザル要件デアルコトハ改メテ申ス迄モアリマセ

又、之ガ爲ニハ船員ノ就業状況ヲ明確ニシ、移動防止其ノ他ノ勞務規制ヲ強化スル

必要ガアルノデアリマス、然ルニ船員法ノ適用ヲ受クルモノニ關シテハ、既ニ船員手帳ノ制度ガアリ、勞務規制ノ基礎ニ缺クル所ハナイノデアリマスルガ、二十「トン」未満ノ船舶乗組員、其ノ他船員法ノ通用ヲ受ケナイ船員ニ關シマシテハ、海上勞務ノ重複シテ居フナイ爲、使用統制其ノ他ノ勞務要ナル資源デアルニモ拘ラズ手帳制度ガ完備シテ居フナニ爲、

第四條第一項中「七百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第四條第二項及第三項中「十二歳」ヲ「十歳」ニ改ム

小形船舶ニ乗込ム者ニ對シテモ船員手帳ヲ受有セシメ、其ノ就業狀況ヲ明カニシ、移動ヲ規制スルト共ニ、徵用船員ノ不斷ノ補充源タラシムル基礎ヲ整備スルコトト致シタイト存ズル次第デアリマス、以上申上ゲマシタル必要ニ基キマシテ此ノ法律案ヲ提出スルコトト致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御質疑ガナケレバ、本案ハ之ヲ船舶保護法中改正法律案ノ特別委員ニ併託致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御質疑ガナケレバ、本案ハ之ヲ船員保護法中改正法律案ノ特別委員ニ併託致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第五十一、簡易生命保險法中改正法律案、政府提出、第一讀會、小泉厚生大臣

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第五十二ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

○國務大臣(小泉親彦君) 只今上程サレマシタ簡易生命保險法中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案ハ戰時下國民生活ノ保障ヲ厚クシ、併セテ浮動購買力吸収ノ増強ヲ圖リマスル爲ニ、簡易生命保險ノ保険金最高制限ヲ千圓ニ引上ゲマスル共ニ、此ノ機會ニ制度ノ整備ヲ圖リマスル爲簡易生命保險法ヲ改正セムトスルモノデアリマス、幸ヒ今回ノ改正が實現致シマスレバ、之ニ依リマシテ本制度ハ益、其ノ特色ヲ發揮スルコトトナリ、戰時下誠ニ意義深キモノアルコトヲ確信致シテ居ル次第デゴザイマス、何卒十分御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ切望スル次第デアリマス

○子爵澤正己君 只今議題トナリマシタ簡易生命保險法中改正法律案ハ、國民貯蓄組合法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

第九條 保險契約者ガ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定セサルトキハ被保險者又ハ其ノ遺族ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

前項ノ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則
本法施行前ノ保險契約ニ付テハ第四條ノ二ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ規定ニ依ル

○國務大臣(小泉親彦君) 只今上程サレマシタ簡易生命保險法中改正法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、本案ハ戰時下國民生活ノ保障ヲ厚クシ、併セテ浮動購買力吸収ノ増強ヲ圖リマスル爲ニ、簡易生命保險ノ保険金最高制限ヲ千圓ニ引上ゲマスル共ニ、此ノ機會ニ制度ノ整備ヲ圖リマスル爲簡易生命保險法ヲ改正セムトスルモノデアリマス、幸ヒ今回ノ改正が實現致シマスレバ、之ニ依リマシテ本制度ハ益、其ノ特色ヲ發揮スルコトトナリ、戰時下誠ニ意義深キモノアルコトヲ確信致シテ居ル次第デゴザイマス、何卒十分御審議ノ上速カニ御協贊アラムコトヲ切望スル次第デアリマス

○子爵澤正己君 只今議題トナリマシタ簡易生命保險法中改正法律案ハ、國民貯蓄組合法中改正法律案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス、是ニテ本日ノ議事日程ハ終リ
マシタガ、御詔ヲ致スコトガゴザイマス、
本會期ヲ通ジマシテ、本會議ノ開會中ニ委
員會開會ノ要求ガアリマシタ場合ニ、議事
ニ差支ナキ限り、議長ニ於テ之ヲ許可スル
コトニ致シタイト存ジマス、御異議ゴザイ
マセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス、次ニ御詔ヲ致シマスマストハ、
本會期ハ戰時下ノコトデモアリマスルカ
ラ、議事ノ進捗ヲ圖ル爲、此ノ際議案配付
後、及ビ各讀會間ニ於ケル定規ノ日數ヲ經
ズシテ、議事ヲ開クコトニ致シタイト存ジ
マス、御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第
彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニ
テ散會致シマス

午後零時五十五分散會

